

の行く所必ず形に伴ふ影の如く離れなかつたが、彼等二名はジョンソンの秘書と云ふのは眞赤な嘘で、實は二人共理學博士の肩書ある大學者であり、且つ發明家であつた。

ジョンソンが參謀本部に忍び込んで、總長室の大鐵箱の背面を譯もなく紙を切る如く切り破つた器械は此の二人の博士の發明考案に成つたものであつた。又た機密書類を匿した二重トランクも然うであつた。又た支店本店の設計も此二人の博士によつて設計されたものであつた。

ジョンソンと二名の博士は、無線電信にも感せず、其他如何なる方法を以てするも妨害されることのない器械を發明し、それによつて巧みに盗み取つた機密書類の内容を本國に通信しようと云ふ計畫の下に、着々研究を進めた。

併し無線電信機にも感せず、其他如何なる方法を以てしても絶対に妨害されな

い通信機械を發明するといふことは、容易いやうで實は非常な困難であつた。

二名の博士は日夜研究に苦心したが、研究は遅々として容易に進まなかつた。

兎角して居るうちに半月經ち一月經つた、研究の結果は依然として曙光すら認むることが出来ぬ、徒らに焦慮して徒らに暗中摸索するのみであつた。

茲に於て二人の博士は更らに數名の専門博士を招致して貰ひたいとジョンソンに要求した、ジョンソンも自分も共に苦心研究して居るもの、心の中では研究上に曙光すら見えないのを心配して居た所であるから、直ちに紐育本店詰になつて居る三名の博士に對し、直ちに上海支店に來れと云ふ無線電信を發した。

五〇、米探三博士上海に急行す

日米商會紐育本店詰となつて居た三名の理學博士は、ジョンソンよりの無

米探三博士上海に急行す

線電信に接するや、是は何事か重大なる事件突發せるに相違ないと、直ちに紐育發のワシントン號に乗つて出發しようとしたが、汽船では時機を失するやうなことがあるかも知れぬ、事件の内容について一言も言はず、直ちに來れと云ふ電文より見れば、事件の内容に言及することの出來ないことか、或は何等の危険が切迫して居るかに相違ない、して見ると悠悠々々汽船などに乗つて居ては間に合はないことになり、折角行つたのが何の役にも立たないと云ふへマを見るかも知れないと云ふので、ワシントン號に乗ることを中止し、商會の長距離用飛行機に乗つて直路上海に急行することに決した。

長距離用の大型飛行機は、直ちに商會裏の廣場に引出された、何しろ四千哩の太平洋を無着陸で一氣に飛行しなければならぬので、飛行中燃料の補給を要する。補給用燃料は五千哩以上を飛ぶ丈けの量が積込まれた。三名の博士も乗り込

んだ。魔物の唸りの如きプロペラの音と共に龐大なる機體は地上滑走より空中に舞ひ上り、一時間二百哩の最高速度を以て太平洋上を轟然、上海の空に向つた。三名の博士は、空や水水や空なる渺茫たる太平洋の澎湃たる巨浪大波を一千メートルの脚下に俯瞰し、風を切り雲を突破しつゝ、ジョンソンが三名の博士を呼んだ理由についていろいろ詮議をして見た。彼れ自身の行動或は店員の行動より米探たることを日本官憲より感知され、日本官憲に追窮されつゝあるのではあるまいかと云ふ想像も爲て見たが、若し然うだとすれば三名の博士を特に呼び寄せると云ふことは何の必要もない、逃走の爲めならば寧ろ快速飛行機を急遣せよと云ふべきで、博士を三名までも呼び寄せる必要はない、無線電信機や其他の機械類に故障を生じたと云ふなら既に二名の専門博士が隨行して居るのであるから、我々三名が行くに當らぬ、それ位なことは二人で充分間に合ふ。事務上の事なら

全然お門違ひである、と云ふ風に頓と何の爲めやら想像がつかなくなつた。結局到着して見なければ分らないと云ふことになり、想像して見た丈け無駄であつた。

五一、太平洋の眞只中で發動機に故障

三名の博士を載せた飛行機は、一直線に太平洋の空中を突破しつゝ、驀進して居たが、紐育を距る約二千哩の處まで來ると、突然發動機に故障を生じた。

さア一大事である。機體は惰力で空中を滑走しつゝあるが、漸次降下して行く、千メートルの高處にあつたのが九百メートル、八百メートル、五百、三百、二百メートルと墜落し、水上を距る殆んど百メートルにまで落ちて來た。乗つた三名の博士は氣が氣でない、顛覆さへしなければ水上飛行機と同様の設備が爲てあるから、直ちに溺死するやうなことはないが、故障の程度が應急修理の出來ない程

のものであつたら、太平洋上に漂ひ、運を天に委する外はない、今にして斯處事になる程であつたら時間は多く費しても結局汽船で行つた方が宜かつたと心中後悔せざるを得なかつた、飛行技師は博士等以上に氣が氣でない、何の用向かは知らぬが乗せた人々は三人共博士である、此の洋上の眞只中で墜落すれば三人を遂に溺死せしめなければならず、自分も運命を共にしなければならぬのであるから、彼れは夢中になつて顛覆墜落を防止するに冒險的手段を盡した。

それが爲めか幸ひにして顛覆墜落だけは免かれ、機體は普通着陸同様フワリと着水した。技師は直ちに危険を冒して發動機の故障を調べに取りかゝつた。

何しろ處は太平洋の眞只中である、小山脈のやうな巨浪は間斷なく襲來する、其都度機體は木の葉の如く揺り上げられ又た揺り下げられる、其の危険を冒して座席から這ひ出して發動機の故障を検べなければならぬ、一つ間違へば巨浪に没

はれてお陀佛になつて仕舞ふ、船なら兎に角、飛行機では到底救助の方法はない、イクラ博士でも然うなつたら木像も同然である。陸上なら博士が三人も揃つて居るんだから、何とか救助の方法もあり、助力の方法もあるが、洋上に墜落した飛行機の上に在つて巨浪間断なく襲來する所にあつては、如何ともすることが出来ない、只だ手に汗を握つて技師の冒險を見て居る外はない。

技師は死を決して座席より這ひ出し、發動機の検査に取りかゝつた。處が故障は輕微の故障で二個の螺旋鈺が弛んで居たと云ふのみで、他の重要部分には何等の故障もなかつた。技師は故障が只だ單に其れ丈の故障であつたので安心もし勇氣も恢復し、十分間も経たないうちに完全に修理することが出来た。

技師が座席に歸つてハンドルに手をかけるやプロペラーは猛然たる音を立て、廻轉を始め、機は再び空中に舞ひ上つた。乗つた三名の博士もホツと安堵の胸を

撫でた。

五二、三博士無事到着

一度び發動機の故障より洋上に墜落した三名の博士は兎に角太平洋横断飛行に成功し、無中上海に到着し、待ち焦れたジョンソン以下三名の面前に無事な三つの顔を見せることが出来た。

ジョンソンは三名の來着を見て大いに喜び、日本參謀本部の機密書類盗出から今日に至る一切の經過を語り、二人の博士が心血を注いで寢食を忘れ研究發明に没頭して居るが、何しろ無線電信機に感じない通信機械の發明であるから、未だ曙光さへも見ることが出来ない、三名に急來して貰つたのはそれが爲めであることとを話した。そこで三名は共に研究するに異議はないが、是れは此方ではかり研

究せず、紐育本店でも同様に研究させることにしては何うかと献策した、ジョンソンは直ちに賛成し、本店支配人と技術部長に宛てた詳細な手紙を書き、之れを三名を載せて来た飛行技師に持たせて歸すことにした。

五三、ジョンソン本國に急行す

協議の結果、ジョンソンの手紙を飛行技師に持たせて紐育に歸らしむることに決したが、ジョンソンは既に三博士が來着した以上、自分が居なくても差支ないから、自分が一應歸國した方が萬事都合が宜からうと云ひ出した。成程考へて見るとジョンソンが居なければ研究が出来ないと云ふ譯でないし、機械の研究のみならず、其他の打合せをするについても總支配人たるジョンソンが一應紐育に歸つた方が宜いに相違ない、五博士も異議なく賛成し、茲に米探の巨頭ジョン

ソンは力針を更へて太平洋横斷飛行を決行することにした。

飛行技師も来た時の經驗に懲りて、今度は出發前機體の検査を綿密に行ひ、それから補給燃料及び糧食飲料水等を積込み、ジョンソンを載せて上海を出發した。

五四、紐育上海相呼應す

太平洋上の雲間を突破し、無事紐育に到着したジョンソンは、直ちに技術部長を自分の室へ呼んで、事の經過を語り、此方でも四五名の専門家をして秘密に研究せしめよと命じた。

而して彼れは其夜自動車を飛ばしてエール博士を訪問し、無線電信と性質を異にした新通信機械の研究發明に助力されんことを請うた。エール博士素より日米

商會の隠れたる主人公であり、裏からジョンソンを操つて居るのであるから、無論拒絶すべき筈はない、彼れは一言の下に

「宜しい、心配するな、晩くも二ヶ月以内には必ず發明しよう。」

と引受けた。ジョンソンはエール博士から今後の方略を授かり、博士郎を辭して商會に歸つた。其時は商會の方でも技術部長の手配りで既に六名の専門家が商會樓上の技術部の研究室に集つて居た。

斯くて彼等米探團の一味徒黨は、紐育と上海と相呼應して新通信機械の研究發明に全力を傾注した。

ジョンソンは其翌一日を休養し、三日目には早くも飛行機上の人となり、巨浪澎湃たる太平洋上を上海に向つて横断しつゝあつたのである。

五五、日本製品關稅引下げ運動の魂膽

米探ジョンソンが上海に渡り、日本官憲の嚴重なる警戒を突破し、盗み取つた機密書類の内容を通信する新通信機を發明すべく、三人の専門博士を紐育より電招し、自身亦た太平洋横断飛行を執行して紐育に歸り、或は本店技術部に研究を命じ、或は親分エール博士に助力を乞ひ、再び太平洋の空を突破して上海に舞ひ戻り、上海支店の一室に孜々として研究發明に熱中しつゝある五博士を督勵する等の大活躍を試み、紐育上海相呼應して新通信機械の發明研究に腐心しつゝある間に、日本では、犯人は必ずや米探又は米探と連絡ある者に相違ないと云ふので、豫て米探らしき行動の疑ある者は片ツ端から拘引し、家宅搜索を行ひ、嚴重に捜査の歩を進め、日米商會に對しても、或は日米親善の美名に匿れて日

本の機密を探らんとする米探であるかも知れない、殊に東京の一有力新聞は、既に日米商會は日米親善の看板に匿れて日本の機密を探りつゝある米探であると云ふやうな記事を掲げた位であるから、或は此の一派の行爲であるかも知れぬと云ふので、神戸支店の家宅搜索を手始めとして、横濱、東京、大阪等の各支店出張所に對しても同様に嚴重なる家宅搜索を行つた。然し其の結果は、神戸支店に於けると同様其れらしい形跡は何物をも發見することが出来なかつた。其後數ヶ月間に三回家宅搜索をやつて見たが依然それらしい證據物を發見することが出来なかつた所から、官憲の方でも日米商會を嫌疑範圍から解放することにした。他方米探ジョンソンの方では頻りに新通信機械發明の成功を焦慮したが、從來形のあるものを改造改良するのと異ひ、影も形もないものを新たに發明しなければならぬのであるから、博士等の苦心研究も、ジョンソンが焦慮するやうに手

ツ取り早くは行かなかつた。エール博士も二ヶ月以内には必ず發明するとジョンソンに誓つたが、是れ亦同様二ヶ月以内には發明の曙光さへ發見することは出来なかつた。

此間、ジョンソンは日本官憲及び一般日本人の日米商會に投げた疑悞と嫌疑とを一掃する計畫を廻らし、紐育に歸つてエール博士と相談の上、日米商會の名を以て紐育發行の各新聞は勿論、米國內で發行される有らゆる新聞紙上に日米は親善提携するに於てのみ兩國及兩國の利益は増進せらるべくして、日米兩國が反目敵視する事の、結局兩國共倒れに終るの外なきを論じ、我日米商會は此の見地より兩國及兩國の眞の理解と親善提携を實現せしめんとする急先鋒となり、先づ經濟的提携を促進せんと努力しつゝありと云ふことを詳述し、米國は日本に一步を譲りて日本製品の關稅率の引下げを斷行することが刻下の急

務である、先づ此の一事を米國が日本に先んじて斷行したならば、日本の米國に對する反感憎惡心は忽ち一掃され、日米親善は迅速に實現されるであらうと云ふ意味を論じた意見書を發表し、政府に對しても建白書を提出し、日本製品關稅引下運動をやり出した。

此頃の米國は政府にせよ一般國民にせよ、日米親善などといふことは全然眼中になかつた、日米親善は米國が日本を征服した後、に於てのみ眞劍に考慮せらるべき問題で、日本と米國が現状を維持し、現状と同様の程度で進行する間は一片の夢想に過ぎないと思つて居た。随つて米國としては日本製品に對して關稅を引上げる所か、實は日本製品に對しては他國の製品に對する以上の關稅を課せなければならぬと云ふ位に考へて居た、ジョンソンの主張する處とは全然反對の意見であつた。無論斯ういふ内情についてジョンソンは全然無知ではなかつた、寧ろ充

分に知り過ぎる位知つて居た、彼れがエール博士の股肱となり米探の總帥として日米商會の全權を握り、日本に渡航し日本官憲の目を胡魔化して大仕掛けの國事探偵行動を取行するだけ、それだけ其間の事情は十二分に承知して居た。それ程自國の日本に對する眞意を承知しながら何故日本製品に對する關稅の引下げ意見を新聞に發表し、且つ政府に對しても同様の運動を試みたか、其れには大なる魂膽が潜んで居つた。然らば其の魂膽とは果して何か、即ちそれによつて日本官民の日米商會に對する嫌疑心を一掃せんとすることのそれであつた。出來ない相談であることは分つて居つても、眞劍に日米商會が然ういふ運動を爲て居ることが日本に分れば、日本の官憲も一般國民も、日米商會は米探だと云ふ噂もあつたが、矢張り米探ではなかつた、彼れは矢張り眞面目に眞劍に日米親善の爲めに努力して居るものである、看板に偽りなきものである、彼れに對しては大い

に援助を與へ便宜を與ふべきで、彼れを米探などと嫌疑するのは大いに間違つて居ると云ふやうになる、然うなれば、日米商會に對する日本官憲の壓迫と警戒は忽ち撤回される、壓迫と警戒が撤去されるれば、縱令新通信機械の發明が失敗に終つても、盗み取つた機密書類を本國に持ち歸ることは何等の危険なく成功する。此の事に成功すれば、同時に日米商會を解散しても差支ない。又た、其れでも日本官民が日米商會を疑はないと云ふのであつたら、依然日米親善の金看板を下げて活躍しよう、と云ふ頗る虫の好い魂膽であつた。

果して日本官民が彼等の計畫にうま／＼と乗せられるか否かは頗る興味ある問題であり、若し彼等の計畫が成功して、日本の官民が日米商會を絶對信用するに至れば、彼等が盗み取つた機密書類は、原文の儘彼等のトランクに入れられて米國に運び去られ、日本の運命は決せられることになる。若し彼等の魂膽を看破

するか、依然として彼等に對する疑悞心を持続し、彼等の一舉一動に對して嚴重なる警戒を加へて行けば、彼等の計畫を畫餅に歸せしめ、盗まれた書類を持ち去られることを食ひ止めることが出来るが、若し彼等が他の一方に於て研究に腐心しつゝある新通信機械にして成功すれば、それによつて日本の運命は決せられなければならぬ。何れにしても日本の運命は今や彼等一派によりて左右せられ支配せられんとする危険に切迫したのであつた。

五六、米國電氣博士の無限自動送機の大發明

エール博士を筆頭とし、ジョンソン以下の米探等は一方に於ては頻りに日本製品關稅引下げ運動を行ひ、他の一方に於ては新通信機械の發明研究を急ぎつゝあつたが、其後數ヶ月を経て、ジョンソンが紐育を去つて上海に渡り、更に轉じ

て日本に渡り、又々轉じて上海に渡り、頻りに米探行動を逞うしつゝ、あつた時に、直ちに歸來せよと云ふ紐育のエアール博士からの無線電信に接した。

彼れは其日のうちに飛行機を仕立て、上海を出發し、遙々四千哩の太平洋を一氣に横斷し、紐育なる親分エアール博士の許に駆けつけた。彼れは上海でエアール博士の招電に接した時、既に博士は重大なる何事かの計畫を樹てたか、或は研究中の通信機械の發明に成功したからであらうと思つたが、駆け付けて見ると果して彼れの想像した如く、研究中の通信機械の發明に成功したのであつた。

エアール博士は心理學専門の博士であるから、然ういふ方面の研究を自分からすることは出来なかつたが、博士の次男は電氣學の博士で、世間では彼れを呼んで電氣學の天才と呼んで居る程の天才的電氣學者であつたので、エアール博士は其次男の電氣學博士に命じて新通信機械の研究をさせたが、研究に取りかゝつて丁

度六ヶ月目に發明は完成した。而して其完成した發明機械は、「無限自動送機」といふ破天荒の發明であつた。此の無限自動送機は、電氣を應用したもので、外形は魚形水雷のやうなものであるが、自動機械は中央から後部の細くなつた部分に取りつけられ、真中から先の方は空洞になつて居る此の空洞になつて居る所に、書類なり何なり送らんと欲する物品を容れ、螺旋釘で密封し、後尾にあるハンドルを百回乃至二百回廻轉すれば、圓筒内の自動機械は其の廻轉によつて發せられた電氣によつて自動運轉を開始し、機體は自然に空中に飛行し、高度調整器によつて示された一定の高度を保ちつゝ、一直線に飛行する、一度飛行し始めれば、其飛行によつて生ずる空氣との摩擦により、機内の發電機は自動的に發電作用を起し、抛棄つて置けば何千哩でも機械に故障が出来るか、障礙物に衝突しない限り無限に自動飛行を續ける、其速力は飛行距離が大なれば大なる丈け加はる、最初

の速度は一時間十哩位の遅速度であるが、百哩、二百哩、千哩と飛行するに従つて、一時間二百哩以上の高速力となる。但し此の無限自動送機は、一直線に進行するのであるから、最初之れを飛行せしむるに當り、正確に目的地點に向けて飛行せしめなければならぬ、而して之を停止せしむるには停止せしむる機械がなくしてはならぬ。併し之れを停止せしむる機械は無線電信機に必要な高塔の必要はない。家根でも室内でも地上でも構はぬ、自動送機を容るゝ丈の餘地のある場所であれば差支ない、一時間百哩二百哩以上の高速力で飛行しつゝあつても此停止機を發動せしめてさへ置けば、停止機の方向に向つて進行し、同時に速度は漸次緩減し、停止盤の上にビタリと停止するのである。此の自動送機の先尖は砲彈の尖端以上に尖つて居て、若し進行路に障礙物があつた場合は、其鋭利な尖端で突破しつゝ進行する、一時間二十哩以上の速度で進行しつゝある場合ならば十珊

知位の鋼鐵板は苦もなく突破する、若し夫れ百哩以上の高速力で飛行しつゝある場合であつたら一メートル乃至一メートル半位の鐵板や石塀煉瓦塀などは到底問題にならぬ。木葉微塵に粉碎されて仕舞ふ。實に驚くべき發明であつた。

ジョンソンはエール博士及びエール博士の二男の電氣學博士から、其の説明を聞き、實驗を見せられた時は、思はず快哉を叫ばずには居られなかつた。

そこで、停止機を日米商會紐育一本店の屋上に据付け、ジョンソンは自動送機を持つて上海から日本に航し、神戸支店の一室にトランクに匿した儘になつて居る機密書類を全部送機に入れ、深夜支店樓上から飛行させるといふことに打合せ、ジョンソンは勇躍しつゝ該機を持つて飛行機に乗り、紐育を後に上海へ急行した。

斯くて米探ジョンソン一派の陰謀は益々進捗し、彼等の計畫は愈々成功に近い

た。それと同時に日本の危機は彼等の計畫が成功に近づくことと反對に益々切迫して来た。

知らず、彼等は果して日本官憲の嚴重なる警戒を突破して、無限自動送機を日本に搬入し得るであらうか……？。

五七、日本官民ジョンソン一派の計略に欺かる

ジョンソン一派の計略は圖に中り、彼等の見込みはまんまと成功した日米商會に對する日本官民の疑雲を一掃せんとする手段として、出来ない相談たる日本製品關稅引下げ運動は、米國では絶対に出来ない相談であつたが、日本官民は悉く欺かれてしまつた。彼等が黄金力を以て各新聞に書かしたる日本製品關稅引下げ論並に日米商會の名を以て新聞紙上に發表したる意見主張及び彼等が政府や上

下兩院に對して意見書を提出し、有力者間を歴訪して運動しつゝありと云ふ紐育電報が日本の新聞紙上に現はれ、駐米大使領事の外務省に齎したる公報等が、官民間に知れ渡るや、從來日米商會を以て米探であると思ひ、或は然うではなからうかと疑懼して居たものは、悉く自分達の考への間違つて居たことを思ひ、翻然として日米商會を米探嫌疑の黒表から解放してしまつた。随つて憲兵隊や警察や検事局の日米商會に對する態度は俄然として一變してしまつた。

機到れりと心中大いに喜んだジョンソンは、自動送機を分解し上海支店に新通信機の發明研究に従事して居た五名の博士と自分との荷物に一部分づゝを詰め込み上海を發して神戸に向つた。

神戸の税關では一々彼等の携帶品から身體検査まで行つたが、這入つて来る者より出て行く者により警戒を嚴にするると云ふ方針と、彼等の日本製品關稅引下運

動の結果による日本官憲の彼等に對する態度の變化とによりて、深く突込んは訊問したり、分解した器械を押収したりするやうな事なく、兎に角無事に通過した。尤も分解の出来なかつた送機の外殻丈は、税關吏も首を捻つたが、彼等は上海で獨逸人の家に在つたものだが何の爲めに斯んな物を拵へたか研究する爲めの材料として譲受けて來たもので、別に怪しい物でないと辯明したので、税關吏も其儘に見遁した。

此時税關吏が此奴怪しいものだと思つて押収するか一時的押収して研究したならば、後日日本が危険の絶頂に立つやうな事はなかつたであらうが、機械などと云ふ方面に専門的知識がある譯でなく、魚形水雷を空にしたやうなものだと思つて、一寸は首を捻つても其儘に通過せしめたのは遺憾至極であつたが、税關吏と雖も後日之れが爲めに一大事件が突發しようとは神ならぬ身の知るよしもなかつた。

五八、日本の官民悉く騒弄さる

斯くまで計略が圖に中つた以上、是れが大抵の者なら、根據地に着するが否や、直ちに機械を組立て、機密書類を入れて發送するのであるが、何處までも注意深い彼れジョンソンは、決して其んな輕率な事はやらなかつた。彼れは何處までも日本を欺き、徹底的に信用を恢復してからでなければ斷行すべからずと考へ、博士連中が急ぎ立てるのを押へ、機械も分解した儘抛棄し、博士連には自分が組立てよと云ふ指揮をするまで、斷じて手を觸るべからずと嚴格に言ひ渡し、且つ若し諸氏が自分の云ふ事を守らず、勝手に組立てるやうなことがあつたら、其時は必ず我々の計畫が悉く水泡に歸し、自分も諸氏と共に日本官憲の爲めて捕縛せらるゝものと承知して貰ひたいと附言し、ファイと神戸支店を飛び出した。

神戸支店を飛出したジョンソンは、青森行特別急行列車に乗り、東京に下車し、先づ第一に外務省を訪問し、米國に於ける自分達の日本製品關稅引下運動意見を捲し立て、日米親善の爲め、寧ろ米國の利益を犠牲として日本の利益を圖らんとすることに献身的に運動し畫策して居る日米商會を、米探の嫌疑を以て見ると云ふのは、餘りに日本官憲に明が無すぎると、滔々と述べ立てた。此時の彼の顔には熱誠のみを見るべくして、米探らしい所は微塵も發見することが出来なかつた。これで外務省も彼れが眞に日米親善、寧ろ日本の爲めに盡力しつゝあるものと思つて居た最近の考へに裏書してしまつた。

外務省を辭し去つた彼れは、内務省、陸海軍省、空軍省を歴訪し、警視總監を訪問し、之れを手始めとして朝野の有力者を片ツ端から訪問し、各新聞社を訪問し、日米商會が米探でないこと、寧ろ日本の爲めに献身的に努力して居ること、

最近米國に於ける日米商會の日本の爲めに盡したる運動などを列挙して、只管誤解であることを辯疏した。

彼れは一方に於て朝野の有力者を歴訪して陳辯に努むると同時に、他の一方に於ては、東京大阪等の有力なる新聞に投書し、日米商會に對する世人の嫌疑は、畢竟日本の爲めに盡しつゝある日米商會の赤誠を蹂躪するものであると言ひ、日本國民は日米商會と共に日本の爲め日米の理解と親善との爲め努力せんことを熱望すと云ふ意味を縷々數千言、大いに世人の同情を買ふに努めた。

彼れの此の言動は、朝野の有力者のみならず、一般世人を動かすに多大の力あるものであつた。彼等が其本國に於て、日米親善の爲め、米國は其の好情を披瀝する手段として、日本製品に限り、米國に輸出せらるゝものは關稅を引下げ、日本の利益を圖るに努むべしと云ふ意見と具體的運動とによりて、大いに動かされ

て居た矢先であるから、彼れの此の日本官民に對する直接運動は、絶對的効果を奏するに充分であつた。

斯くて日本の官民は一ジョンソンの爲めに翻弄せられ愚弄せられ、彼れの思ふが儘に動かされ、彼れの爲めに頗る好都合に動かされてしまつた。彼れは此の運動によつて、最早や大丈夫と見るや、神戸に歸つて無限自動送機の組立に取りかかつた。

二三日後には完全に機械の組立てが終つた。試運轉をやつて見ると、結果は大成功で、曩のエール博士邸で實驗した時と同様の好成绩であつた。

彼等は愈々トランクの底に匿して置いた機密書類を取り出し、送機に容れて紐育なる日米商會本店に向け發送するばかりとなつた。

彼等としては最早や九分九厘までの成功であり、日本としては九分九厘まで彼

等の爲めに解體の組上に載せられたのである。

彼等は果して能く、此の無限自動送機になつて目的を達するであらうか。日本の官憲は遂に流星光底長蛇を逸して仕舞ふのへまを演ずるであらうか。日本官憲は如何にして彼等の陰謀を看破し、彼等一味徒黨を一網打盡的に逮捕し、大事を未前に防止せんとするであらうか。

今や危険は絶頂に達した。米探成功するか、日本官憲彼等を逮捕するか、危機は最早や間一髪に迫つた。

五九、自殺少將の愛兒亡父の爲め奮然として起つ

參謀本部内で、機密書類紛失事件から、係長官が責任自殺を遂げ、參謀本部では其長官を以て犯人であると發表し、世人の耳目を聳動せしめ、言論界は參

自殺少將の愛兒亡父の爲め奮然として起つ

謀本部の廓清を叫ぶに至つたが、自殺した長官には三人の愛児があつて長男は中學五年生、二男三男はまだ小學校に通つて居た。所が此の事件あつて以來三人共同窓の學生からも盛んに非國民の子、賣國奴の恠呼はりをされ、學校へも行けなくなつた。而かも邸に居ても一步門外に出づれば同様の嘲罵を浴せかけられるばかりか、夜中投石するものさへあり、塀には見るに堪へぬ侮辱の落書をされた。出入の酒屋、米屋、八百屋、魚屋さへ出入しなくなつた。女中も然うなると居られなくなつて逃出して仕舞つた。母子四人は如何に父の罪の結果とは云へ、餘りの情なさに相抱いて泣かざるを得なかつた。投石されたり、嘲罵を浴せられたり、其他堪へ得られない侮辱を加へられた時などは、母子四人終夜悲痛の涙に死を決したことさへあつた。

長男は十八歳と云ふ年長者であつた丈けに、父が自殺したのは、果して參謀本

部で發表した如く、犯罪者であつた爲め、良心の呵責に堪へずしての結果であらうか、果して我父は身軍人の要職に在りながら、そんな不逞な精神の所有者であり、國家を賣るが如き行爲を敢てする人物であつたであらうかと云ふことについて考へた、晝も夜も考へた末、彼れは我父は犯罪者であつたが爲めに自殺したのではない、斯ういふ重大事件を惹起した責任の輕からざるを痛感痛思した結果の責任自殺に相違ないと云ふ結論に到達した。自分の父は金の爲めに國を賣り、非國民たることを甘んずるやうな、其麼精神の腐敗した人非人では斷じてない、參謀本部が父を眞犯人として發表したのは必ず何か事情が有るに相違ないと思つた。而して彼れは責任自殺をした父の冤罪を雪ぐ爲めに、眞犯人を搜索し、眞犯人の首に繩をかけて警察なり憲兵隊に引渡さなければならぬ、世間の嘲罵の爲めにメソソ泣いてばかり居る場合でない、自分は今日只今から犯人の搜索に着手せぬ

自殺少將の愛兒亡父の爲め奮然として起つ

ばならぬと決心した。

斯う決心した彼れは母が止めるのも諾かず、奮然として或夜窃かに我家を出た。邸を出るは出たもの、何しろ十八歳の少年であり、然う云ふ犯人の捜査は何う云ふ風にして何う捜査すべきものか、犯人捜査上については何等纏つた専門的知識もなかつたので、亢奮した心を抱いて目的もなく街から町、町から街を彷徨ひ歩いた。

終夜廣い東京の街々を彷徨つて居るうちに、彼れは何か思ひ當つたものがあつた。彼れは踵を返して中央ステーションの方へ足早に歩き出した。

彼れが中央ステーションの待合室に這入つた時は、壁間に掲げられた大時計の針は午前四時を三十分近く廻つて居た。出札口の前に立つて切符を買つた彼れが再び待合室に引返して十分と経たないうちに、待合室に備付けられたベルがけた

たましい音を立て、鳴り渡ると同時に「鹿兒島直行」と云ふ赤い札が自動的にベルの下に現はれた。

彼れも多くの乗客と一緒に改札口の方へ歩いて出た。荷物と云つても小さな風呂敷包一個しかない彼れには赤帽などに氣を揉む心配もなく、早く列車に乗つて座席を占めなければ手荷物の置場に困るなどの憂もなかつた。彼れは悠々と長い／＼プラットホームを歩いて列車に乗り込んだ。それから五分間と経たないうちに、列車の各室のベルが鳴り、列車は音もなく動き出した。

斯くて十八歳の少年は亡父の冤罪を雪がが爲め、断然學業を抛擲し、住み馴れた東の都を後に、西へ、西へと進んだのであつた。嗚呼健氣なる此の少年の身の上に、果して幸豊かに實る日が来るであらうか……。

六〇、朝川捜索隊の苦心、失望

透視鏡の發明者朝川青年と博士とは、空軍省から提供された空中軍艦に乗り、東京全市を透視した後、西に向つて捜索の進路を取り、横濱、神奈川、静岡、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島と云ふ順序で、先づ東海道沿線から山陽道の各都市村落を透視捜索し、馬關海峡を突破して九州に飛び、琉球から臺灣を捜索したが、何等怪しいものも發見し得なかつた。

そこで、今度は滿洲朝鮮を隈なく捜索し、轉じて壹岐對馬の空を経て、山陰道を透視し、左に轉じて四國に飛び、四國一圓を鏡檢して見たが、それでも目的物は發見されなかつた。

『先生、東京以西には無ささうですね。』

『さうさな、絶望ぢやね。』

『東海道筋をモウ一度精査し、中仙道から北陸方面に移り、東北一圓を捜索してそれでも絶望でしたら愈々北海道へ行つて見る外はありませんね。』

『どうも然うする外に途はあるまい。然し朝川。』

『何です先生。』

『乃公は何だか前途が悲觀されて來たよ。』

『まだ日本の半分しか捜索しないではありませんか、半分位の所で悲觀なさるんか、先生にも似合はないではありませんか。』

『だが然うでないよ、乃公は目的物が發見されるなら東京か、東京でなかつたら東京以西だと思つて居たんだが、其の目星を付けて居た方面に絶望とすれば、残る半分は寧ろ徒勞のやうに思はれてならんよ。』

「大丈夫ですよ先生、必ず発見します。國外に出て居ない以上、必ず発見するところが出来ますよ。」

「無論國外に出て居ない以上、必ず國內になくはならない譯だがね。」

「兎に角全國を搜索した以上で、発見されなかつたら、其時悲觀しても晩くはありませぬよ。」

「然う云へばそれに違ひないが、乃公は何となく前途が失望に終るやうな氣がしてならん。」

殆んど日本の半分以上を隈なく透視搜索して何物をも得なかつた朝川青年と博士との間には、四國の搜索を終つて、再び京阪の空に現はれた時、脚下に群がる幾萬の夢を俯瞰しつゝ、斯ういふ會話が試みられた。それ丈け博士はモウ關東地方には望みを有つて居なかつた。博士の悲觀説を打消して、博士の挫けかけた勇氣

を鼓舞しようとした朝川青年さへ、心の裡では博士と殆んど同じやうな失望を感じざるを得なかつた。

絶望か絶望でないかは、全國を隅から隅まで搜索した後にと云ふことにし、朝川青年と博士とは、更にモウ一度東海道筋を搜索した。走馬燈の如く過ぎ行く山川都邑を、五百メートル乃至一千メートルの空中から、蟻の這ふ迄見通すまじと精密に透視し、精密に搜索したが、最初の搜索と同様、結果はナツシングであつた。

次に中仙道を搜索し、北陸地方一帯を透視し、關東一圓を鏡裡に收め、更に轉じて北海道から樺太、千島列島まで搜索した。或時などは百メートル二百メートルの低空にまで下降して、精密に精密を盡し、微に入り細にいつて鏡檢して見たが、矢張り何者をも発見することは出来なかつた。

博士と朝川青年は、遂に失望を抱いて空しく鏡検搜索の最後のページを作らなければならぬことになった。千島列島の搜索を終へて、寒風身を切る如き北海の空中を、東京に向つて航走しつゝあつた時、朝川青年と博士との面上には、只だ失望の暗い色が漂うて居るのみであつた。

博士は、是れ丈けのもので是れ丈け搜索をして遂に發見することを得なかつた以上、最早や我々が搜索せんとする目的物は日本の領土外に持ち去られたものに相違ないと思つた。朝川青年も同様に思ひ、且つ此の事件については最早や斷念する外はないと思つた。けれども、朝川青年には、關西方面が怪しい氣が、絶望したうちにもチヨイ／＼頭を擡げた、モウ一度更に精密に鏡検して見たらと云ふ氣が閃いた。朝川は此儘何者も得ずして歸るのは、如何にも残念で堪らぬ所から、若し博士が絶対に失望して、是れ以上搜索する必要を認めぬと云ふなら、自分一

人更にモウ一度關西方面を搜索して見ようと云ふ氣を起した。

『先生。』

『何ぢやな？』

『僕はモウ一度關西方面を搜索して見たいと思ひますが！』

『徒勞だ、モウ廢したまへ。』

『先生は徒勞と思ひなさるか知りませんが、僕には何うも徒勞でないやうな氣がします。何となく關西方面が怪しいやうな氣がします。關西地方の何處かに匿されて居るやうに思はれてなりません。』

それは君が最初さう思つたから、それが先入主になつて居るからだ。最初君が北海道方面に在ると思つたら、矢張り然う思はれる。徒勞だから廢したまへ。』
『イエ、先生のお言葉に背くやうですが、僕はモウ一度搜索して見ます。先生は

東京でお降りになりますか。』

『イヤ何うせ其事で斯うやつて出懸けたんだから、強つて君が行くと云ふなら、乃公一人降りるのも變だから一緒に持つて見よう。』

『さうですか、それは有り難い、先生も一緒にお來が願へれば氣が丈夫で一層張合があります。』

斯う云つて彼れは艦長にモウ一度關西方面を搜索するから東京を通過して直行して呉れるやうに頼んだ。

六一、自殺少將の遺子遂に機密書類の所在を突止む

亡父の冤罪を雪がんとする一心より、母に分れ弟等に別れ、單身家を出で、中央ステーションより鹿兒島直行の列車に乗り込んだ自殺少將の遺子〇〇少年は

一度び大阪に下車し、大阪市内を探偵して見たが、素より初心な少年の探偵で、斯程重大なる犯罪の足跡がさう容易く分らう筈がない。彼れは徒らに大阪市内を迂路ついたに過ぎなかつた。

今度は京都に轉じて探索し、京都にも失望して神戸に現はれ、外人商館に雇はれたり郵便集配人になつたりして、外人方面に探偵の目を光らして見たが、矢張り何の曙光も見えなかつた。

そこで彼れは神戸を思ひ切り、再び大阪に舞ひ戻らうと思つて居ると、彼れをして急に勇氣を鼓舞せしむることが彼れの目に映じた。それは東京の或る新聞の記事であつた。

彼れは自分の受持區域の集配を一回終り、次の番の者と交代し、集配人休憩所に腰かけて、テーブルの上に亂雑に取り散らされた其日の新聞を取りあげた。彼

自殺少將の遺子遂に機密書類の所在を突止む

それは其時別に新聞を讀まうと云ふ氣があつたのではなかつた。自分の目的として居ることに曙光らしいものも見えないので、今後は何う云ふ風にして何の方面を探偵したらよいかと、案じ煩らつて居たので、殆んど無意識に手を伸ばして取りあげたに過ぎなかつた。

彼れの頭には機密書類の事ばかりではなかつた。數ヶ月前別れて來た母や弟たちの事も彼れの心を痛めたことの一つであつた。母や弟たちは今も猶世間の人々から嘲罵と迫害を受けて居ることであらう、而して自分が居た時のやうに終夜母子が無念の涙に咽んで居るであらう。又た斯うして家を出て探偵に行方知れず彷徨うて居る自分の事を思つては案じ煩らつて居ることであらう。若し斯うして千辛萬苦を嘗めて犯人を搜索し、機密書類の行方を搜して居る自分の結果が、不幸にして徒勞に終つたら、母も弟たちも嘸悲しむことであらう、生涯賣國奴の子、

國賊の妻として我々一家族は、世間から罵られ嘲けられ迫害されなければならぬであらう。斯う云ふことをそれからそれと思ひ煩うては、流石に健氣な彼の心は曇らざるを得なかつた。双の眼からは熱い涙がハラ／＼と落ちた、膝の上の新聞には忽ち涙の跡が印せられた。

けれども又た、此の重大事件が、十八歳の少年たる自分の力によつて解決され、亡父の冤罪が雪がれた時は何うであらう、其時の母の喜び、弟たちの喜び、自分の喜び、さては今迄國賊だ賣國奴だと罵り虐んで居た世間の人々の一變した態度、さう云ふ時の光景を描いて見れば、徒らに悲觀したり案じ煩らつて涙を流したりするのは、餘りに意氣地のない事だ、そんな女々しい心を起す場合でないと思ひ返され、挫けかけた勇氣も再び復活した。

彼れは自ら鞭撻しながら、數行の涙に濡れた膝の上の新聞を取りあげて、讀む

ともなく一枚々々と繰り廣げて行つた。すると、社會記事面の初めに、大きな活字の標題が目にとまつた。それは『米探か日米親善か怪しむべき日米商會の行動』と云ふ標題で、日米商會は日米親善を看板とする米探であると云ふやうな事が、殆んど半頁に亘つて特筆されてあつた。而して日米商會の米探的行動としては、彼れは日米貿易を盛んならしむるの、日米貿易を一手に行ふの、日米貿易に従事しつゝある者、今後従事せんとする者に對しては、有らゆる便宜を圖るのと云つて居るが、今日迄事實上そんなことは少しもやつて居ない、そんな事を言ふばかりで殆んど何事も實行して居ない。それは彼等がやつた事の數字的结果が明かに立證して居ると、日米商會の過去一年餘の營業成績が數字的に明示されてあつた。

彼れは非常の興味と非常に有力な手懸りを得たやうな氣になつて、一字一句も

漏さず其記事を始め終りまで讀んだ、中には二回三回讀み返した所もあつた。彼れは此の記事を讀み了つて、或は此の記事の如く、日米商會なるものは、日米親善を看板とする米探の機關であるかも知れないと思つた。尤も此の記事にも日米商會は米探であると斷言はしてない、米探ではないかと云ふ嫌疑的に書いてある。新聞の言ふ如く、資本金が何億圓だの、日米の貿易業を一手にやるのと振れ出しは如何にも大仰であるが、一年餘も経つた今日に至つても、最初宣告した事の何十分の一も實行して居ない。東京、横濱、大阪、神戸、長崎を始めとし、朝鮮から支那方面にも多數の支店や出張所を設け、一つの支店だけでも幾十人の店員を使用し、堂々たる三階四階建の大建物を擁し、私設無線電信まで架設し、如何にも資本金何億の大商會らしく、如何にも日米の貿易位は一手に引受けてやりさうにして居るが、事業らしい事業は殆んどやつて居ない、然ういふ

點から見れば、成る程怪しく思はれる。米探であると云ふ確實な證據は擧つて居ないけれども、實は内々米探行為をやつて居るのかも知れない、彼等が商業上の必要の爲めと云ふ理由で建設して居る無線電信は、何を通信して居るか知れたものではない、或は日本の機密を探つては、それを暗號か何かで本國に打電して居るのかも知れない。いよ／＼日米商會が米探といふことになる、彼處に店員として雇用されて居る日本人は悉く米探の配下で米探の手先となつて國家の不利益を圖つて居るものと見なければならぬし、必然の結論として然うなる譯であるが、あれ丈の日本人店員が、悉く米探であると云ふことは一寸信せられないことだ。併しあれ丈の大勢の日本人店員が悉く米探でないとしても、日米商會が米探でないといふ證據にはならない、雇入れた日本人店員は何にも知らなくても、雇主たる米人等が、彼等の陰にかくれて米探行動をやつて居れば、日

米商會は米探である。或は彼等が官憲を欺き世人を胡魔化す手段として、殊更多くの日本人店員を使用して居るのかも知れない、即ち多くの日本人を店員として使用して居れば、あれ丈の日本人が働いて居るのであるから、日米商會が米探であるとすれば、其の日本人店員の誰かに分らなければならぬ、縱令二三の人は彼等を買収されたにしても、あれ丈の日本人が悉く買収されて居ると云ふことは思はれぬ、あの中に二人や三人の硬骨漢が居ないことはない、それが居れば、直ちに官憲に密告するなり、世間に發表するなりするに相違ない、然るにそれが今日迄一人もないと云ふのは一寸怪しい。

彼れは各方面からいろ／＼に研究觀察して見たが、米探らしくもあり米探でないやうでもあり、容易に判断がつかかなかつた。そこで彼れは、果して日米商會が、看板で欺いて米探を働いて居るものか何うか、是れは一番自から彼の商會

の店員となつて探偵してやらうと思つたので、其翌日彼れは神戸支店に出かけて行つて、支配人に面會し、店員として使用して貰ひたいと申込んで見た。すると其時は丁度監督のジョンソンが居ないから、監督が歸つた頃來て貰ひたいと云ふ。それは困る、私は今行く處もなく寝る所もなく、金もなくて困り果て、居る所であるから、今此店で斷られるれば、野倒死をする外はない、監督が歸らるゝまで此の店に使つて呉れ、食はしてさへ貰へば、別に月給なんか要らないからと無理に願つた。

支配人は、此商會の規則として、店員を雇入れる場合は、支配人の一存に行かない、必ず監督の許可が出なければ、絶対に使用しないと云ふことになつて居るからと、容易に承知して呉れなかつたが、彼れは此處で使つて呉れなければ、何うせ野倒死をするに定つて居るのだから、雇つて呉れるまで店頭を動かしないと

坐り込んだきり、何と宥めても賺しても動かなくなつた。

支配人も是れには頗る手古摺つたと見えて

『それでは、兎に角監督が歸つて來て何と云ふか分らないが、私の獨斷で監督が歸る迄使つてやらう。』

と云つて臨時雇人となつた、何しろまだ十八歳の少年ではあり、學校も中學五年の級に居た位であるから、別に是れと云ふ専門の技術もない。已むを得ないから支配人は差當り掃除役を吩咐けた。

彼れに取つては、掃除役は却つて好都合であつた。愁じ専門的な事をさせられ一つの室にばかり嚙りついて居るより、室々や廊下などを掃除して廻つて、各室に入り込んだ方が、彼れの目的を達する上に都合が宜い。彼れは心中大いに喜び、忠實熱心に立働いた。支配人も彼れが陰日向なく働く容子を見て、彼れを悉皆信用

してしまつた。

支配人に信用された彼れは、掃除の範囲に制限を置かれなくなつた。即ち、從來は多くの下級店員の事務室のみに限られ、其他の室の掃除は、前から居る老人の掃除範囲とされてあつた。それは新參だからといふのと少年であるからと云ふ理由の下に然う限定されてあつた。

それが支配人に信用されるに従つて區域が漸次擴大され、何の室の掃除を爲ても差支ないと云ふことになつたので、日米商會の内面の秘密を探偵しようといふ目的を持つた彼れとしては非常の好都合であつた。

彼れは支配人の部屋や、課長の室内を掃除するときは、非常な細心な注意を以て何等かの秘室を握らうと努めた。小さな一片の紙屑にも微細な観察を下し、微細な物體の落ちて居るのにも多大の注意を拂つた。

併しながら、彼れの欲する所のものは一向に與へられなかつた。落ちて居る紙屑は何でもない紙屑ばかりであり、散ばつて居る物體は問題とならぬ物體の破片などに過ぎなかつた。

或時彼れは大膽にも支配人や課長室のテーブルの抽出を開け、中に入れてある種々な書類を一枚々々檢べて見たことさへあつた。然ういふ時の彼れの神経は極度に緊張し、彼れの全精神の注意力は、二つの目と指先とに集中して居た。けれども矢張りそれも遂に徒勞であり無駄であり、無効果の努力に終つた。

又或る場合、殊に知らない客があつて、課長や支配人が應接室又は自分の室で話しを爲て居る時などは、掃除をする風をして、内の容子を立聞きしたこともあつた。或は支配人や課長等が客と一緒に外出するやうな場合には、裏口から窺かに脱け出して、其れを尾行したこともあつた。だが其れも全然失敗に終つた。

自殺少將の遺子遂に機密書類の所在を突止む

彼れは時々考へた。是れは矢張り間違ひであるかも知れぬ、日米商會には何等の秘密もないのかも知れぬ、米探だと思つたのは自分の考へ違ひであつたかも知れない、彼等は矢張り彼等の標榜する所の如く、日米親善を目的とする以外、絶対に何等の野心も目的も有つて居ないのかも知れない。若し事實然うだとすれば、こんな所に神経を尖らして何時までも愚圖々々して居るのは寧ろ馬鹿氣たことだ。こんな何もない所に愚圖ついて居たのでは、何時まで経つても亡父の冤罪は雪げない。いつそ病氣とか何とか口實を設けて此所を出てしまはうかと幾度か考へた。

然う考へた反面には又た、イヤ待て〜然うでない、然う簡単に分るやうな下手なことでは、到底國事探偵などの大事はやれない、本職の探偵に探られても尾行られても分らない程に巧妙でなくては、到底米探などの大膽不敵な行爲は出来るも

のでない。殊に自分の如き素人の少年に、容易に探知されるやうなことでは、疾うの昔に探知され暴露されて居る筈だ。自分の探偵力の足りないのを棚にあげて見切りをつけるなどは間違つて居る。何でも神戸支店は真先に家宅搜索を受け、其後數回家宅搜索をされたと云ふことで、それでも官憲は遂に何物をも攫むことな

くして引揚げたではないか、而も官憲が突然乗り込んで家宅搜索までやつて、それで何等米探らしき形跡も證據物件も發見し得なかつた所から見ると、彼等の行動は眞に巧妙極まつたもので、尋常一様的手段方法では、到底真相を突止めることは出来ない。

彼れは斯う考へ直して見切りをつけることを思ひ止まつた。而して彼れは猶一層注意を拂つて真相を看破し、彼等の米探的證據を得ようと努めた。

或日のこと、彼れは例の通り監督の室を掃除しようと、室内に這入ると、直覺

的に參謀本部の機密書類が此の室内に隠匿されてあると云ふやうに感じた。

其時の彼れには、神か亡父の靈かが自分の耳に然う囁いたものゝやうに感せられた。自分が見切りをつけようとするのを見かねて、重大な祕密を神か亡父の靈か自分知らせて呉れたかのやうに感じた。

彼れは然う直覺的に感ずるや、テーブルの抽出も一々開けて見た、押入なども一々開けて見た、而して注意深く書類などを檢べて見たけれども、機密書類らしいものは何んにもなかつた。

彼れは失望した。此室内に匿されてあるやうに感じたのは自分の神經からであつたのであらうと思つた。其事のみを考へて居たのと此の室が監督の室であるといふことが無意識に結びついて、然ういふ錯覺を起したのであらうと思つた。

然う思ひながら押入の上の段を不圖見ると、赤革の大きなトランクが幾つも幾

つも積み重ねてある。彼れは之れを發見するや、此のトランクの中に匿してあるのではないかと思つた。十八歳にしては長身であつた彼れは爪立つて手を延ばすと、容易にトランクに手が届いた。

彼れは音のしないやうに上から引降ろして蓋に手をかけて見ると、蓋は譯もななく開いた、どれも一錠は下してなかつた。けれども蓋が容易に開いただけ中は失望するものばかりであつた。書類も這入つては居たが、詰らない商會用のものばかりか、手紙の古いものばかりであつた。其手紙も若しや何等かの手がかりがと思つて一々讀んで見たが別に怪しい手紙でもなかつた。

ところが五個ばかりのトランクのうち、一番下積みになつて居た一個は、比較的新しいが、他のトランクに較べると、幾らか重味があるやうに感じた。中に入れられて居る品物には大した相違はありさうに思へないが、扱て蓋をして持ち

較べて見ると、心持ちか知らないが幾らか重いやうな氣がする。そこで彼れは更に綿密に研究して見たが、其れ一つは他のトランクと違ひ、何でも二重に拵へてあるのではないかと思ふやうな點があつた。コツ／＼叩いて見ると音が違ふ、二重になつて居て間に幾らかの空隙があるかのやうな音がする、怪しいなと思つてコツ／＼叩いて叩き較べて見ると確かに怪しい點がある。

六二、少年探偵の苦心水泡に歸せんとす

一つの怪しいトランクを發見した〇〇少年は、これこそ適乎機密書類の匿してあるトランクであらうと思つた。

彼れは、以前積み重ねてあつた通りに積み重ね、掃除を済ました風をして窺と室外に出た。暫く他の室や廊下の掃除をして、一通りの掃除が終つた頃、彼れは

腹痛を起した。掃除仲間の老人は撫でたり擦つたり爲て呉れたが腹痛は少しも治らなかつた。幾ら撫でても擦つても彼れの腹痛は容易に治るべき筈はなかつた。と云ふのは眞實の腹痛でなくて假病であつたからである。

『治らないか、醫者に診せたら何うだい。』

老人は眞實に痛いのだと思つていろ／＼親切に介抱して呉れたが、少年はさも苦痛に堪へないと云ふ表情をして、

『有り難うございます、イエ、私の腹痛は持病なんです、小さい時から此癖があつて困つたのです、以前は殆んど毎日のやうに痛んだんですが、近頃は些とも起らないから治つたのだらうと思つてましたが、今日は久し振りに起りました。薬なんか要りませんが、暖かにして寝て居ると治ります。』
と云つた。老人は我子の病氣でいもあるかのやうに心配して、

『然うかい、でも這麼所では落ついて寝て居られないから、寧ろ下宿に歸つて寝たら何うかい、それが宜いよ、然うしろよ、乃公が支配人さんに然う云つてやるから。』

『なアに宜いんですよ、此所に寝て居ますから。』

と止めるのも聽かず、老人は一人で呑込んで室を出て行つた。間もなく戻つて来て、

『さア下宿へお歸り、支配人さんにお願ひしたら、ちやア下宿に歸つて一日でも二日でも寝て居たが宜い、早く歸してやれと云ふことだから。』

彼れは老人の親切によつて、自分の下宿に送り届けられた。下宿と云つても素より立派な下宿屋ではない、駄菓子屋の二階の汚い三疊がそれであつた。駄菓子屋は老人夫婦と、或る工場に通ふ倅との三人暮しであつた。下宿の老夫婦は彼れ

が送られて歸つて来た姿を見て非常に驚いたり心配して呉れたりした。而して腹の痛むのに二階に上るのは大變だから下の部屋に寝て居たが宜いと頻に勞はつて呉れた。

けれども彼れは強つて二階の自分の部屋へ行つて寝た。老夫婦は彼の部屋へやつて来て親切に介抱して呉れた。

實際病氣でも何でもないので薬を飲めの撫でてやらうのと言はれるのは、實は甚だ迷惑であつたが、仕方がないから薬だけは飲んだ、そして蒲團を被つて寝てしまつた。

一時間餘、我慢して寝て居た彼れは、ムツクリ起き上つた。老人夫婦は外出しては不可と頻りに止めたが、彼れは大丈夫だと云つて外出した。

下宿を飛出した彼れは、神戸警察署へ行つて署長に面會を求めた。受付の巡查

と押問答の後漸く署長に面會することが出来た。彼れは自分の身の上を語り、例のトランクが頗る怪しいと思ふから、モウ一度検事局と打合せをして家宅搜索をやつたら何うかと云つて見たが、署長は其トランクは既に數回の家宅搜索の際取調べて異状のないことの分つて居るものであるから、今更取調べをする必要はないと、全然問題にしなかつた。更に押して云へば、其麼事には本職の警察が檢べて怪しいものでないことを確認した以上、取調べをする必要はないと劍もホロ、の挨拶であつた。

彼れは劈頭第一警察に失望し、次に憲兵隊長に會つて、同じ事を繰返して見たが、憲兵隊長の云ふ所も警察署長の云ふ所と殆んど同じやうな挨拶であつた。彼れは更に検事局に出頭し、檢事に會つて話して見たが、是れ亦た問題にして呉れなかつた。

彼れは最早や此の事件を解決する爲めに持つて行く處がなくなつた。彼れは悉く失望してしまつた。其結果彼れは警察や憲兵隊や検事局の冷淡を怨んだ、而してこんな風だから此の事件が今だに解決されずに迷宮に入つたまゝになつて居るのだと憤慨せざるを得なかつた。

六三、暗示に一道の光明を認む

今迄にない緊張した心を持つて駈けつけた結果が、冷遇され問題にされず、悉く失望に終つた少年の心は、それだけ失望の程度が大きかつた。

失神したやうになつて、フラリと下宿に歸つたのは、其日も暮れて、下宿では既に夕餉が済んで一時間餘も経つた頃であつた。彼れは飯も食はず、自分の部屋に這入つて頻りに考へ込んで居た。宿のお婆さんは幾度も食事を勧めに來たが、

彼れは途中で食つて来たからまだ食ひたかないと云つて食はなかつた。彼は其夜一夜一睡もせず考へた。何う云ふ方法によつたら彼の怪しむべきトランクを取調べる事が出来るだらうかと、其方法の事ばかりを考へた。

すると丁度午前一時を過ぎた頃、彼れに一つの暗示が與へられた。それは失望と落膽に打沈んで居る彼れを復活させ、勇氣更に百倍せしむるに足る暗示で

『明日の午後、空中軍艦に乗つた搜索隊が神戸の空を通過する。』

と云ふことであつた。此の暗示を得た彼れはそれに一道の光明を認め、其の空中軍艦を呼び止め、それに乗つて搜索隊に話せば、必ずやあのトランク問題を解決して呉れるに相違ないと考へた。

翌朝彼れは白木綿を一反買つて来て、自分で大きな旗を拵へた。而してそれに『空中軍艦止め！ 國家の一大事あり！』

と大きな字で旗一ぱいに書いた。其れを風呂敷に包んで下宿を出で、途中で手頃な竹を一本買つて神戸の町を横断し、神戸港を遙かに見下す背後の山の頂上に登つた。彼れは擔いで来た竹に旗をつけ、空中軍艦の通過するのを待つて居た。

六四、果然、空中軍艦見ゆ！

山巔の石に腰を下して待つて居ると、午後一時二時となつた。けれども空中軍艦らしいものは来ない。三時近くなつたが矢張り空中軍艦の姿は現はれなかつた。緊張して待つて居た少年は何だか心細くなつて来た。若し空中軍艦が来なかつたら、最早や萬事休矣である。夕方まで待つて空中軍艦が来なかつたら、東京へ戻つて警視廳なり憲兵司令官なり、參謀總長なりに話して、彼のトランクを檢べて貰はうと思ひつゝ、四方の空中に目を配つて居ると、大阪方面から一つの黒影が

現はれた。昨夜の暗示の通り、果然空中軍艦の雄大なる姿が彼れの視界に這入つて来た。彼れは我知らず、突立つて萬歳を絶叫した。

小さな黒影であつた空中軍艦は、見て居るうちに龐大なる艦體となつて近づいて来た。彼れは夢中になつて旗を取り上げ、左右に振り始めた。

彼れと軍艦との距離は、どんな大きな聲でも通じない程の遠距離であつたが、嬉しさの餘り彼れは其麼ことには一切頓着せず、旗を振りく〜

「軍艦止め！ 軍艦止め！」

と叫んだ、有らん限りの大きな聲を絞つて叫んだ。空中軍艦は彼れの正面即ち彼れの鼻と一直線の所まで進んで来た。

然し、空中軍艦の方では彼れの合圖が分らなかつたのか、彼れの方には何等の合圖もなく、彼れの前を横ぎつて行き過ぎようとした。彼れは狂氣の如く焦燥り

立ち、益々激しく旗を振り、咽喉が裂けるかと思ふばかりの聲で叫んだ。けれど軍艦の方には何等の反響もなかつた。軍艦は彼れの合圖と叫び聲とを無頓着に段々彼れを遠ざかつて行つた。

六五、空中軍艦に救助さる

「先生、あの山の頂上で誰か旗を振つて此方に何か合圖を爲て居るやうですが、何の合圖でせう？」

透視鏡を双眼に當て、山の方を見て居た朝川青年は、斯う云つて反対側に在つて矢張り透視鏡を覗いて居た博士の方を振り向いた。博士も朝川の方へやつて来て見ると確かに誰かが山巔に白旗を振つて居る。

「フ、ム、成程ね、何か此方へ合圖を爲て居るものと見える。」

「何うです、何の合圖だか分りませんが、此方からも合圖を爲て見ませうか。」
「それも可いだらう。」

朝川は直ぐに乗組兵士に信號用の小旗を振らせて見た。すると山の方でも其れが分つたのか旗を縦横に振り、次に前後に振つて、來れと云ふやうな振り方を始めた。

「先生、御覽なさい、先方も此方の信號が分つたと見えて、旗の振り方が違つて來ましたよ。」

「さうかな、ドレ〜。」

透視鏡を其方へ振り向けた博士は

「フーム、何か容子のありさうな合圖ぢや。」

と云つて二人は熱心に其の旗の振り方に注意し、兵士に激しく旗を振らせて見る

と、今度は緩やかに左右に振り始めた。緩やかに振る旗を能く見ると、「空中軍艦止れ！ 國家の一大事あり！」と墨で大書してある。

「朝川、あの旗に書いてある文字が分つたか。」

「分りました、空中軍艦止れ、國家の一大事あり！」と書いてあるやうですね。」

「さうぢや、何は兎もあれ、行つて見よう。」

艦て軍艦の方向は其方へ轉せられた、瞬くうちに軍艦と少年との間は百メートルと離れない短距離に近づいて、直上に接近して、軍艦から救助繩を下してやると、少年は繩の先に附けてある鈎をズボン締めにした兵子帯に引かけた。救助繩は急速に機械で捲き上げられた。

艦内に救ひ上げられた少年は、餘りの嬉しさに暫くは只だ泣くのみで急に聲さへ出なかつた。

讀者よ、此の少年が泣いたとて女々しと笑ふ勿れである、彼れや自殺して却つし冤罪を蒙つた父の爲めに、斷然學業を抛擲して母や弟に別れ、單身家を出て諸國に流浪し、あらゆる辛苦艱難と戦ひ、遂に怪しきトランクを發見し、雀躍して亡父の冤罪が雪げると思つたも束の間、哀れや官憲の冷淡なる態度、劍もホロロの挨拶に悉く失望し、一夜思ひ惱んだ末、不圖搜索隊を載せた空中軍艦來ると云ふ暗示を得、非常の困難を冒して數千尺の山巔に攀ち登り、暗示の如く空中軍艦の來るを見、且つその軍艦に今や救ひ上げられたのである。彼れとしては、此際歡喜の絶頂に達した結果として只だ涙より外にはあるべきでないではないか。否な、彼れでなくしても恐らく何人と雖も斯かる場合に冷然として居られるものがあらうか。泣け！泣け！讀者も哀れなる而も健氣なる此の少年の爲めに、最後の幸豊かなる日に近づいた小愛國者の爲めに、世にも稀れな孝子の爲めに、

に、一掬の同情の涙を流してやることを惜む勿れ。

博士も朝川青年も居合せた乗組將卒も、少年が只ださめくと泣く姿を見て、何か深い事情のあること丈けは直覺した。博士と朝川は少年を勞はり、旗に書いた國家の一大事とは何ういふ事かと訊いて見た。少年はそれを訊かれて又た泣き出した。泣いて泣いて思ふまゝに泣いた後、彼れは徐ろに語り出した。彼れが參謀本部で自殺した〇〇少將の遺子で、亡父の爲め斷然學業を廢し、機密書類を盗み出した犯人を搜索すべく、今日迄數個月間あらゆる辛苦艱難を嘗めて來たことの一切を語り、日米商會に入り込んで、其の真相を探りつゝあるうち、圖らずも階上の監督ジョンソンの室内より、數個のトランクを發見し、其中の下積みとなつて居る新しい一個のみが特に怪しいと云ふことを語つた。そしてそれを檢ぶべく警察や憲兵隊や檢事局へ出頭して懇請して見たが、全然問題にして吳

れなかつたこと、失望落膽して下宿へ歸り、其夜一睡もせず考へ込んで居ると、明日午後搜索隊を載せた空中軍艦が神戸の空を通過すると云ふ暗示を得たことを物語り、其れに一道の光明を得て、斯くは貴艦に救ひ上げられたのであると、涙ながらに語つた。

朝川も博士も傍に聞いて居た將卒も驚いてしまつた。殊に自殺した〇〇少將の遺子であると云ふことは、一同をして暗然たる心持ちに誘ひ込んで、胸の塞がる思ひをさせられたのであつた。

博士も朝川も少年に對して大いに敬意を表した。亡父の冤罪を雪ぎ亡靈を慰めんとする孝心より發した行爲とは云へ、其は悉く國家奉仕の行爲である。且つや博士も朝川も少年と同じ目的の爲めに全國を搜索しつゝあつたことであり、殆んど失望して居たことであるから、日米商會監督室内に怪しいトランクがあると

聞いては、少年の苦心と功勞とに對し、多大の敬意と感謝とを捧げざるを得なかつた。

博士は目をしばたゝきながら、

『あなたが自殺された〇〇少將の息子さんとは意外でした。私等もあなたと同じやうに、あなたのお父さんがあの事件の犯人であるとは信せられなかつた、それが爲めに此の朝川君が十五年間かゝつて發明した透視鏡で、全國に亘つて透視搜索をやつて居る所ぢや、此の神戸も既に前後二回搜索したのだが、日米商會内のトランクについては氣がつかなかつた。安心しなさい、是れから直ぐに其のトランクを検べて見ませう。』

と言つた。少年は博士の此の言葉を聞いて又泣き出した。

六六、日米商會神戸支店の透視捜査

自殺少將の遺子〇〇少年によつて光明を認められた博士と朝川青年は、直ちに日米商會神戸支店の透視捜査に取りかゝつた。或は直上より、或は右斜側より、左斜側より、精密に透視鏡檢を行つて見ると、第三階の表面通りに面した廣い一室の押入れに六個の大型トランクが積み重ねてあるのが分つた。

そこで今度は、透視距離を調節して、トランクを上の方から一つ一つ透視して見た、すると少年の言葉の通り、最下のトランクのみは外殼が他のトランクに比して厚い、確かに二重製になつて居るらしい。内部に入れられた物を透視して見ると別に機密文書らしいものではない、そこで細心の注意を以て外殼を透視して見ると、明かに二重製であることが判つた、且つ外殼の二重になつた間には何か

文字や圖のある書類様のものが挟まれて居る。

博士と朝川青年は息を殺して、擴大鉤を捻りつゝ其の挟まれた文書様のものが、果して何であるかを檢べた。

果然！二重製トランクの間に挟められたものは、參謀本部が數ヶ月前に盗み去られ、有らゆる苦心慘憺して搜索しても今日迄杳として分らなかつた機密書類であつた。トランクの蓋から底から四方の外殼に挟まれたものは悉く夫れであつた。博士と朝川は異口同音に

「ズめたッ！」

と思はず叫んだ。艦長もやつて來て博士の覗いて居た透視鏡を覗いて見ると艦長も呀と驚いた、蓋の間に挟まれたものゝ如きは、文字や圖面が恰度一間先にあるものを双眼鏡で見ることが如く、明瞭に讀むことが出来る。艦長は今更ながら、透視

鏡の力の偉大不可思議なるに驚かざるを得なかつた。

六七、策を弄して遂に失敗す

茲に於て讀者は必ずや一の疑問を起すであらう。其はそれ程の書類を匿したトランクの入れてある押入にジョンソンは何故錠を下して置かなかつたか、又た入口の扉は外出の時は一々何故錠を下さなかつたか、開けツ放しで何人でも自由に出入の出来るやうにして置いたのは、ジョンソン程の人物にも似合はないではないかと云ふことである。

ところが是れはジョンソンも百も承知千も合點して居た。斯ういふ場合、百人が百人千人が千人トランクは素より押入にも扉にも錠を下して嚴重に警戒するのであるが、それは普通のやり方である、然ういふ遣り方をして置けば、一朝日本

官憲の家宅搜索の際怪しまれて特に嚴重なる搜索をされる憂ひがある。且つ探偵などが商會内に入り込んだ場合に怪しまれる第一の原因となる。警戒をし過ぎて却つて怪しまれ注目されんよりは寧ろ開放無警戒にして何人にも注意を惹き起さしめない方法を執つた方が、却つて有効な警戒策であると思つたからである。神戸の検事局が二回までも家宅搜索を執行したにも拘はらず、又た此の監督室も搜索したにも拘はらず、此のトランクを開けて中の書類や其他の品物を一々檢べたのみに止め、一物をも得る所なくして引揚げたのは、確かにジョンソンの計略の成功であつた。然しジョンソンの不在中〇〇少年が支配人の獨斷によつて雇入れられたと云ふことは、ジョンソンの巧妙なる策畧の裏をかゝれ、遂に彼等の致命を制せらるゝ重大なる原因となつたのであつた。つまり、ジョンソンは策を弄して成功し、又た策を弄して遂に失敗に陥つたのである。

策を弄して遂に失敗す

而かも此の神戸支店の透視捜査が空中より行はれ、怪トランクの正體が悉く透視鏡の力によつて博士と朝川の眼中に発見された時は、ジョンソンは自分の不在中そんな重大事件の發生し居ようとは夢にも知らず、東京に在つて盛んに朝野の名士有力家を訪問しつゝある時で、而も其日を以て一先づ神戸支店へ引揚げようと思つて居る時であつた。

博士と朝川は一先づ東京に引揚げ、政府に報告して、彼等を一網打盡的に檢舉することに決定した。日米商會神戸支店の上空を旋廻しつゝあつた空中軍艦は徐ろに艦首を東京の方へ向け直すや、一千メートルの高度を保ちつゝ、最高最大級の快速力を以て一直線に暴進し始めた。

博士と朝川と〇〇少年とを載せた空中軍艦が、神戸の空を去つた時は、丁度東京に活動しつゝあつたジョンソンが中央ステーションから鹿兒島直行の急行列車

に乗り込んで東京の地を去つた時であつた。

六八、米探團の一網打盡的檢舉大方針成る

朝川青年と博士とは、一時間ばかりで東京の上空に現はれた。

二人は先づ順序として參謀本部の前庭に下艦し、參謀總長に一切の結果を報告した。總長は兩人の手を取り、其の功勞を感謝し、殊に此の事件の端緒が自殺した〇〇少將の遺子の苦心捜査によつて得られたといふことを聞いて傍に居た〇〇少年の手を固く握りぬめて感涙を流した。

參謀總長は直ちに自動車を飛ばして、檢事總長を訪問し、日米商會員全部を一網打盡的に檢舉する方法について協議を凝らした。檢事總長は部下の檢事正等を召集して密議し、憲兵司令官警視總監とも打合せをして、各支店を一齊に襲ひ、

一人も残らず検舉する大方針は、其の翌日の正午少し前に決定した。併し、直ちに彼等の検舉に取りかゝるのはジョンソンの活動から見ても宜しくない、此際數日間には彼れの運動を有効ならしめたやうに見せ、彼れをして安心せしめた油断に乗じて一網打盡的に逮捕しようと思ふことになつた。

ところが此の検舉方針は、彼等ジョンソン一味の不逞漢等をして事を爲さしめる時日を與へ、日本が最大危険に瀕せしめられる機會を作る結果となつた。

と云ふのは、東京の活動から神戸支店に歸つたジョンソンは、紐育から上海を経て持ち込んだ無限自動送機を、上海から連れて來た五博士に組立てさせ、之れにトランクの間に挟み匿した機密書類を取り出して詰めかへ、紐育に向つて發送する時日を與へたものであつたからである。

六九、危機一髪、萬事休せんとす

愈々日米商會大檢舉を執行する日が來た。檢事總長は日米商會支店所在地の檢事局に對し、豫て打合せた通り彼等を一人も遁さず、檢舉すべき命令を下した。それは檢舉當日の前日の朝のことであつた。

此の命令に接した各檢事局は、憲兵隊及び警察に對し、明日午前三時を期して執行することを通告した。各地の憲兵隊に對しては檢事總長が各檢事局に命令を發したと同日同刻の頃に、中央憲兵司令官より、警察と共力して日米商會員全部の檢舉を行ふべき命令が發せられた。

愈々其日も暮れた。日米商會支店所在地の檢事局、警察、憲兵隊は豫定の計畫に従つて、檢舉の手配に着手した。午後十二時迄には完全に手配が出來た。檢

事務局も警察も憲兵隊も午前三時となるのを手具脛引いて待つて居た。

時計の針は午前一時を指し、二時を指し、三時を指した、検事局、警察、憲兵隊は、一齊に彼等の檢舉に取りかゝつた。

此時、朝川青年と博士と〇〇少年とは、空中軍艦に乗つて、機密書類の隠匿された神戸支店の上空に、一時間前から出張し、透視鏡下に支店を暴露せしめ、監視をすることになつて居たので、午後十二時前に東京を出發し、神戸に向ひ、豫定の時間通り、午前一時の頃に神戸の上空に着した。

そこで博士と朝川青年とは、例の怪トランクが依然として異状なきや否やを見るべく、透視鏡下に照して見ると、不思議！ 不思議！ 三階の監督室の押入にあつた所のトランクは何處へか運び去られて仕舞つて居る。二人は驚いて階上階下を透視して見たが、例の怪トランクは影も形もない、さては彼等何處へか運び

去つたのか、あの夜のうちにでも檢舉を斷行すれば、こんなことはなかつたらうに、例のトランクの姿がなくなつたとすると、ジョンソン以下を逮捕しても、今度は書類の行方を新たに搜索しなければならぬことになる。ジョンソン程の大膽不敵の曲者が、縱令捕まつたにしても、書類の匿し場所を直ちに白状するやうなとは絶對にあるまい、若し彼等が何等かの方法によつて國外に運び去つたとすれば、今日までの苦心慘愴が悉く水泡に歸する譯である。博士と朝川青年は、僅僅數日間に怪トランクが行方不明になつた事實を知つて非常に驚き且つ非常に失望した。否な、二人の心には期せずして、例のトランクは米國に向つて送られつ

つあるやうに感じたのであつた。

博士と朝川青年は艦長と協議し、直ちに無線電信係りをして參謀本部、司法省、海軍省、空軍省を呼出させ、トランクが何時の間になくなつて居ると云ふこと

を通信せしめた。而して次に神戸検事局、警察、憲兵隊に通信した。此の意外なる通信に接した參謀本部、司法省、海軍省、空軍省などは愕然として驚いた、神戸の検事局、警察、憲兵隊なども呀と驚いてしまった。

ところが、其無線電信を受取つた時は、大檢舉決行豫定時間の午前三時に五分間しかなかつた。併しトランクの行方が不明になつたからと云つて檢舉を中止する譯には行かない、否、トランクが無くなつて居れば無くなつて居る程迅速に檢舉しなければならぬ。そこで檢舉は豫定時刻の午前三時を期して、各支店出張所共一齊に行はれた。

果して神戸支店檢舉の結果は、ジョンソン以下數十名の商會員を逮捕したのみで、肝腎のトランクは何處へ行つたか影も形もなかつた。憲兵と警官とが血眼になつて商會内を搜索して居ると、ストロヴの中から焼け残つたトランクの一

片が発見された。焼けた處を調べて見ると、確かに二重製のトランクの一片であることが判明した。そこでストロヴの中の灰を能く検査して見ると、トランク丈を焼棄したもので、機密書類をも焼き棄てた形跡はなかつた。トランクのみを焼棄して書類は焼き棄てないとすると彼等は何處へか匿し場所を變へたか、或は巧みに國外に運び出したものに相違ないことが明かである。

七〇、機密書類既に國外に運び去らる

博士と朝川が透視してもトランクもなく機密書類もなかつた筈である。神戸の官憲が商會員全部の檢舉を行ひ、商會内を隈なく搜索しても、目指すトランクが何處にも発見し得なかつたのも不思議ではなかつた。又たストロヴの中からトランクの焼け残りの一部分のみが現はれ、機密書類は焼棄された形跡のなかつ

機密書類既に國外に運び去らる

たのも寧ろ不思議でも何でもなかつた。

日本官憲が午前三時を期して日米商會員全部の一網打盡的檢舉を決定した時より數時間前、即ち博士と朝川とが空中軍艦で神戸に駆けつけた午前一時の約三十分前、ジョンソンは、其前日迄に組立を終り、試運轉を行つた無限自動送機にトランクより取り出した機密書類一切を詰め、之れを紐育日米商會本店に向けて飛行せしめ、破壊したトランクはストーヴの火中に投じて焼棄したのであつた。即ち數ヶ月間非常の努力と苦心とを以て漸やく所在を發見した機密書類は、此時既に無限自動送機によつて日本國外に運び去られ、自動送機は太平洋上を紐育に向つて幕進しつゝある最中であつた。

七一、太平洋上より怪物飛行の無線電信

朝川青年と博士とは、是は必ずや何等か巧妙なる方法によりて國外に運び出したものであると断定し、空軍省に打電し、上海方面に追躡空中軍艦數隻を急遣されんことを請ひ、又た太平洋方面にも數隻の追躡艦隊を直ちに派遣されんことを請ひ、朝川と博士とは、直ちに全速力を以て太平洋上を米國に向つて幕進した。博士と朝川とは、ジョンソン等が國外に持ち出したとすれば、恐らく潜航艇を利用したに相違ないと判断したので、透視鏡を海中に向けつゝ全速力を以て進んだ。

時に、朝川等の乗つた空中軍艦の無線電信機に意外なる通信が感じた。それは布哇方面を航行しつゝある日本商船より發したもので、其通信は、『空中魚雷に似たる怪物紐育方面に向つて飛行しつゝあり。』と云ふのであつた。無線電信技師より此の事を聞いて、博士も朝川も驚いた。こ

これは大變、それでは彼奴等は既に我空中魚雷を拵へ、それに書類を填め込んで本國に送つたのか、それとも空中魚雷の祕密を知り、其理を應用して新機械を發明し、それによつて送つて居るものかに相違ない、いづれにしても、其の怪物を取り逃がしたら、最早や愈々萬事休して仕舞ふと、急に心はいらくして來た。艦長は全速力の命令を機關室に傳へた。軍艦は一時間四千哩以上の最高速力を以て彈丸の如く洋上の空中を飛んだ。東京空軍省より派遣された十隻の空中軍艦も同じく四千哩以上の最高速力で、一列横隊の陣形で、各二千メートルの間隔を保ちつゝ、驀然に紐育方面に急行した。

博士と朝川とを載せた空中軍艦が約一時間を飛行した頃、左舷後方より「空中魚雷様の怪物、東經百六十度、北緯四十度二分の線を米國方面に向つて進行しつゝあり。」

といふ無線電信が來た。東經百六十度北緯四十度二分の線と云へば、布哇の北方で横濱シヤトル間の汽船航路線と東經百六十度の線との交叉した附近である。博士と朝川は艦首を其方向より稍右方に轉じ、再び全速力を以て航進した。五分間も経たないうちに、其線附近に達した。すると丁度其時、左舷から妙な響きを立てて空中魚雷に似た一個の怪物が驀進して來るのが見えた。

「ソレ！ 怪物が來たッ！」

と直ちに方向轉換を行ひ、怪物と並行し、怪物と同じ速力を以て進み、怪物が丁度軍艦の甲板の上を飛行するやうになるやうに巧みに軍艦を操縦して進んだ。何しろ怪物は只だ一直線に前進するばかり、此方は自由自在に行動し得るのであるから、忽ち注文通り怪物は甲板の上而上甲板と殆んど同じ高さの所まで來た。博士と朝川は上甲板に上つて見ると、魚形水雷其儘の物で、尾端にプロペラーが

ついでそれが非常の速力を以て廻轉して居るばかり、今迄曾て見たことのない怪物である。朝川と博士は透視鏡を取り上げて怪物の内部を透視して見ると、中央より稍前部によつた所に書類が詰め込んである。そこで朝川は六尺餘の鐵棒を取り上げるか否や力任せに怪プロペラーに一撃を喰はした。反動を食つて朝川は後ろに顛倒したが、同時に怪物はプロペラーを打碎かれ、凄まじい音を立て、甲板に墜落した。朝川も幸ひ顛倒した丈で何處にも怪我はなかつたので、博士と共に甲板に駆け降り、怪物の解剖に取りかかつた。應援の爲め後方を來航しつゝある各艦に對しては、直ちに

『怪物捕獲せり。』

と云ふ無電を送り、直ちに歸國の途についた。東京に着し、參謀本部に運び込んで外殻を破壊して見ると、盗み取られた機密書類が悉く其中に詰め込まれてあ

つた。

斯くて數ヶ月間世を騒がし官憲が夜の目も眠らず搜索に苦心慘憺して解決しなかつた機密書類は発見せられ、完全に解決せられた。

此の顛末は翌朝の新聞紙上に公表せられた。ジョンソン以下の米探三百餘名は悉く東京監獄に投り込まれた。

博士と朝川と〇〇少將の遺子は兩陛下に拜謁仰せ付けられ、功により勳一等功一級金鷄勳章を賜はり、朝川青年は國費を以て帝國大學理科に入學させられ、〇〇少年も同じく帝國大學を卒業する迄國費を以て學費其他一切を支辨せらるべきことを申渡された。又た博士は國防委員を命ぜられ、いづれも官報を以て發表された。

此の大事件の真相發表せらるゝや、全國の新聞は先を争うて博士、朝川、〇〇

少年の記事を特筆大書したが、殊に朝川青年が世界一の大泥棒たらしんとする目的を以て透視鏡の偉大なる發明を完成し、心機一轉して國家の危急を救ふに供した行爲と、〇〇少年が十八歳の身で亡父の冤罪を雪がが爲めに單身家を出で、數個月間野に伏し山に伏し、有らゆる苦心をして遂に日米商會に入り込み、怪トランクを發見した勇敢にして孝心厚き行動とは、讀む者をして感涙に咽ばしめた。又た朝川を救ひ朝川の發明を完成せしめ、之れを國家に捧げしむるに與つて力あつた博士も、正に眞の愛國學者として稱讚を博し、博士の薰陶を受けた者は、之れを記念せんが爲め博士の銅像を建立しようと思ふことに決した。

七二、米國の内亂勃發

米國に於て、日本人大排斥の行はれて居る眞最中、米國に取りて重大なる内亂

が勃發した。それは米國南部諸州に於ける黑人即ちアメリカインディアンが團結し、他各州に散在せる黒人と氣脈を通じ、叛旗を翻へしたことであつた。

而も黒人の叛亂の原因は、民族自決主義に據る獨立運動といふのではなかつた。勿論、一面に於ては、黑人自由國を建設せんとする目的もあつたに相違ないが、其の直接原因となつたものは、米人に對する反感と、排斥せられ迫害せられつゝあつた日本人に對する同情とであつた。隨つて其原因は頗る複雑なものであつたのである。

米國全土に散在せる黒人の數は殆んど二千萬以上に達して居た、米人は常に此の黒人の繁殖力の大なることと、黒人の政治的、經濟的、科學的その他一切の文明的知識能力に於て、漸次白人に抵抗するに至つたことを大なる憂患とし、如何にして黒人を低級民族の儘に保留せしめ置くべきか、如何にして黒人の繁殖を防

遇すべきかについて頭腦を悩まし、有らゆる慘酷なる手段方法を盡して來た。從來何十回となく繰返された大規模の黒人虐殺の如き、又た私刑の如き、黒人排斥運動の如き、皆な悉く夫れであつた。

然し白人系米人が黒人に加へた有らゆる背人道行爲は、黒人を雌伏せしむるに有效ならずして、寧ろ彼等を鞭撻し、彼等を覺醒せしめ、彼等をして米國に叛旗を翻へさしめることとなつたのである。

米人の加ふる壓迫迫害無道殘忍がより甚だしくなればなる丈け、彼等をして憤怨せしめ奮起せしめた。彼等は抗爭上の唯一の武器たるべき文明的一切の知識能力に於て劣つて居ることを自覺し、其子弟教養の目的は専ら其點に在つた。其結果は遂に徒勞でなかつた。彼等の子弟からは、幾多の大學者を出した。幾多の發明家を出した。黒人全部を率ゐて米國に叛旗を翻へすに足る程の人傑も現はれた。

殊に黒人種の大弱點であり、多年米人の爲めに奴隷扱ひされ、劣等民族扱ひされ、虐待酷遇されても猶ほ是れに反抗すること能はず、有らゆる屈辱を忍んで屈服し盲従するの餘儀なかつた最大原因たる團結力の薄弱も、漸次改造され鍛鍊され、其強度熱度は、遙かに米人を凌駕するに至つた。此の黒人全體の進歩は、黒人に取りては絶大なる光明であつたが、米國及米國人に取りては重大深刻なる疾患ならざるを得なかつたのである。

米國の識者中には、夙くも此點に想到し、米國及米國人の對黒人態度が、依然として舊來の儘を繼續せば、米國の破壊は、必ず黒人の手によりて行はれるに相違ないことは、最早豫定の事實、豫定のプログラムと云つてもよい程に分明となつた。米國人が米國を愛し米人自らを愛し、米國の米人たり、米人の米國たることを永久に維持せんと欲せば、須らく此際對黒人態度を一變し、白人と同等の待

遇を以てし、米國市民としての完全なる權利を名實共に與ふることを要す、而して彼等黒人の對白人の反感憎惡復讐心を忘却せしめ、米國市民としての愛國者たらしむることが緊急焦眉の問題であると叫ぶものさへ現はれた。

然し、其聲も一般米人に徹底しなかつた。恰かも無人境に於ける一人演説に等しいものに過ぎなかつた。斯くの如き眞の愛國者の苦言を容れて從來劣等民族、奴隸人種として取扱ひ來つた黒人に對して白人同等の待遇を與へるには餘りに尊大であり餘りに傲慢であつた。黒人が進歩すれば其れ丈け一般米人の迫害は猛烈となり、黒人の實力が充實すればする丈け黒人排斥の火の手は盛んになり、黒人の團結力が強固になればなる丈け黒人虐待熱の熾烈の度を加へた。而して黒人排斥の理由が劣等人種たるの故でなくなつて白人と拮抗し白人を凌駕する程に進歩したるが故となり、大體に於て排斥理由は日本人排斥の理由に等しいものとなつ

た。つまり弱い者劣れるものであるから排斥するのでなくて、強い者優つて居るものであるから將來を恐怖して排斥するといふやうに、排斥迫害の理由が變化したのである。

而も其間、日本が人種平等案を提唱して、有らゆる白人強國に楯つき、破れても握り潰されても、否破るゝ毎に握り潰される毎に、貫徹せざれば已まざる決心を示し底力を現はして來たことは、黒人に對して多大の刺戟となり、世界有色人種同盟の成立は、遂に黒人をして、日本及日本人は世界有色人種の救主であり、世界全人類の指導者であると信するに至らしめ、非常の興奮劑となり、蹶起躍動の原動力となつた。

然るに英佛米濠諸國が日本に反對して同盟を結び、日本を根本的に打破せんとするに至つて殊に米國が其同盟の中心となり、日本人に對して慘虐なる迫害を加

ふるに及んで、彼等の熱血は一時に沸騰迸發し、遂に内亂的大事件を惹起するに至つたのである。

七三、米國の過半修羅場と化す

米人の日本人排斥の無道惡逆に義憤を發して、二千萬の黒人は猛然蹶起し、南部諸州の黒人は大同團結をなし全米に散在せる黒人に飛檄し、日本人排斥反對の大示威運動を開始した。全米黒人種の名を以て全國十八州の知事、州議會等に對しては勿論、米國政府や上下兩院其他全國の有力者に對して、日本人排斥の背人道的なること、日本人排斥を直ちに中止し、親日方針を採ることを建議し、若し此の提案にして容れられずんば、黒人全部は日本及日本人の爲めに米國及米國白人と戦ふを辭せざることを附言し、牢乎たる大決心を示した。而して全國各大都

市に於ては黒人の大團體が排日反對親日主義の旆旗を押立て、市街を練り歩き、數百萬枚の宣傳ビラは雨の如く振り撒かれた。

ところが、黒人の此の示威運動に對して、米人は反省せざるのみか、黒人は日本人と同腹になつて米國を破壊するものなりと解し、示威運動中の黒人團體を襲撃し、或は黒人部落の包圍攻撃を行ふなど、亂暴狼藉を働き、茲に黒白人の大闘争が開始され、黒人亦た全部武器を執つて蹶起し、白人の襲撃を撃退し相互に數萬の死傷を出した。政府は、米國人たる黒人が一般米國人の意志に反して日本及日本人の利益を圖らんとし、示威運動を行ふのみならず、日本及日本人の爲め米國及米國人と戦ふを辭せずなどと揚言するのみならず、政府並に一般市民を脅迫するは不都合千萬、米國獅子身中の蟲なりとし、軍隊を出動せしめて黒人部落を攻撃せしめた。

然し覺醒して眞劍に蹶起した黑人である。尋常一様の鎮壓手段に直ちに屈服するものでない。二千萬の黑人は老弱を問はず男女を論せず、苟くも黑人の血を享けたものは悉く起つて米國政府並に米國人の攻撃に對抗したのであるから擾亂は益々擴大し、米國の過半は一大修羅場と化した。

七四、墨國民の黑人援助

米國政府及一般米人は、黑人の反米行動の裏面には日本及墨國ありて、これが教唆煽動によるものと曲解し、在米日本人の迫害を更に倍加したのみでなく、墨西哥人に對しても迫害の鋒を向けた。

之れが爲めに、墨國政府は米國政府に對して嚴重強硬なる抗議を爲し、墨國の輿論は大いに沸騰し、米國の暴狀を非難するの聲全國に滿ち、米國膺懲を決行せ

よと叫ぶに至つた。

然るに米國政府は、墨國政府の抗議に對し、頗る不誠意の回答を以てし、無根の事實捏造の報告を楯に取つて逆振を喰はし、墨國政府の面目玉を遺憾なく踏潰してしまつた。而して國境軍の動員を行ひ、對敵行動を進め、文句を言ふなら腕力で來いといつた風の態度を示した。

茲に於て、墨國の輿論は公然對米宣戰を主張し始めた、此際墨國起たすんば、在米日墨人は悉く屠殺さるべし、墨國民は正義人道の一切を無視し蹂躪して顧みざる米國政府及米國人を相手として平和的折衝を爲すも無益である、無法者に對して法を説くは寧ろ愚である、横道者に正道を説くは馬の耳に念佛である、墨國の米國に對する處置としては、武力的方法を以てする以外最早絶對に最善の方法がない、直ちに外交的交渉を打切つて宣戰し、傲慢無道天人共に許さざる米國

及米國人の頭腦を粉碎せよと絶叫し、米國既に國境軍を動員して對敵行動を爲せるに對し、我政府が猶且つ平和的折衝によつて満足な解決を得んとするは脚下の爆彈を見つゝ、舞踊するに等しいものであると稱し、政府の態度を軟弱なりとして非難するに至つた。

斯くて米墨關係が歩一步、日一日開戦に近づきつゝある時、在米墨國人は公然黒人を援助し、盛んに米國軍隊に對抗した。米國政府は此の在米墨人の行動を、墨國政府の教唆使喚によるものとし、逆襲的抗議を持ち込んだ其中に墨人を交へた黒人軍は、バルチザン的に出没し、或は米國軍隊の兵營を破壊し、或は武器製造所を爆破し或は米人市街を焼き拂ふなど、米國官民をしてきり／＼舞ひさせ、米國國境軍も其の奇襲によつて多大の損害を出した。

又た一方に於ては黒人中の傑物が、迅速に軍隊の編成を行ひ、米國軍に對抗して一步も屈しなかつた。何しろ二千萬からの黒人全部が楯つくの、墨國人が之れに加擔し、墨國政府が墨人援助主義で楯つくのであるから、ヒステリックになつた米國政府は、黒人の反抗を鎮壓するは、墨國に打撃を加ふるの外なしとし、墨國政府に對し、二十四時間の回答期限を附し、墨國政府にして其黒人援助主義を放棄し、在米墨人の黒人援助を中止せしむるにあらざれば、米國政府は自由行動を採るべしとの最後通牒を發した。墨國政府にして此の最後通牒に辟易するやうなら、寧ろ初めから黒人援助の對米抗議は敢てしない。果然墨國政府は、墨國の黒人援助主義政策は、墨國民の正義心人道的精神の發露にして、何等米國政府の抗議を受くべき不正當の理由なし、且つ在米墨國人の黒人援助運動に關しては墨國政府は内命或は教唆煽動によるものにあらず、然し米國政府は墨國政府及在米墨人の態度行動を非難するに先立ち、米國人の黒人、日本人、墨國人に對する無

道惨虐の迫害行動を中止せしむることを要す。之れ米國政府の爲すべき焦眉の問
題にして、復た當然の義務なりと反駁し、米國政府の最後通牒を粉碎してしまつ
た。

七五、米墨遂に開戦す

斯うなつては、米國も其通牒通り自由行動を執らざるを得ない。米國政府は墨
國の回答に接するや直ちに宣戦を布告し、其國境軍司令官に命を下した。米國國
境軍司令官は直ちに軍事行動を開始し墨國の機先を制し、墨國內に侵入すべく、
麾下の全軍に墨國殺到の命を下した。充員せられたる三十餘萬の米國國境軍は、
墨國國境軍の虚を衝いて慶殺すべく進撃を開始し、墨國國境軍兵營に向つた。
ところが、墨國は軍事上何等の準備なくして米國に對して抗議しつゝあるほど

の迂濶ではなかつた。米國は必ず斯う來るに相違ないことは墨國政府の夙に看破
して居つた所で、既に一切の準備は整ひ、米國國境軍が國境を突破せんとするに
至らば、之れを邀撃し、疾風迅雷的追撃を行ひ、黒人軍隊と策應して米軍を挾撃
せんとする策戦であつた。

果然、墨國の豫期した通り、米國國境軍は、墨國國境軍に不意討を食はすべく
やつて來た。米國黒人バルチザン隊より發した無線電信による情報を接受した墨
國國境軍司令官は、該情報を政府に打電すると同時に、豫め賦與せられたる權限
により、直ちに全國國境軍に米國邀撃の電命を發した。

七六、痛快なる米墨國境の邀撃戦

米國國境軍が、墨國國境軍を一蹴し、無人境を行くが如く墨國を蹂躪せんす冲

米墨遂に開戦す

天の意氣を以て、將に國境線を突破せんとする際、二十萬の墨國國境軍は、殆んど一舉にして米國國境軍二十餘萬を全滅せしめてしまつた。

而も此墨國軍の米軍塵殺は一兵を損せずして理想的に行はれたが、其策戦は實に數年間に亘つて畫策されたもので非常に綿密に、用意周到に出來たものであつた。墨國は第一次日米戦以來、將來再び米國と開戦することあるべきを豫期し絶對秘密裡に、國境全線に亘り、國境線に併行して三條の坑道を掘鑿し、イザとなれば其の三條の坑道に爆薬を装置し、電氣仕掛で爆發せしめ、第一線の爆破で完全に奏效しなかつた場合は第二線の爆破により、第一線第二線で奏效しなかつた場合は第三線の爆破によつて侵入米國軍を塵殺するといふ、頗る大仕掛けのものである。此の大装置のある限り、米國が幾百萬の精銳を以て侵入せんとしても全滅するに決つて居る。米國が此の大装置を知らなかつたといふのは、米國の大

手抜かりで、巧々と墨國の計畫に乗せられ、墨國の注文通り嵌つてしまつた。

米國國境軍二十餘萬が、潮の如く國境線を越え、此の爆破装置線上に來た時、其部分々々の地は、轟然たる大音響と共に爆發し、米軍は人馬悉く土砂岩石爆煙と共に冲天に跳ね飛ばされ、微塵に粉碎された。纔かに粉碎を免かれたものもあつたが、其等は航空隊の投下爆彈、或はX形に猛射した機關銃の爲めに悉く斃されてしまつた。

米軍の前衛及び本隊を微塵に粉碎した墨國國境軍は、全軍一齊に大追撃戦を決定し、戰鬥部隊全滅の爲め潰亂的に退却しつゝあつた米軍の後方の兵站部隊を捕虜とし、莫大なる軍需品を鹵獲した。此の大敗報に接した米國國境軍豫備隊は、勝に乘じ猪突的に猛進追撃し來る墨國軍を邀撃すべく、直ちに本營を進發した。

然るに何ぞ測らん、米墨國境に接近した地方の黑人バルチザン隊と墨國國境軍

との間には既に已に米國國境軍慶殺の策戦が計畫されて居つた。米國國境軍豫備隊が本營を進發すると殆んど同時に、黑人バルチザン隊は墨國國境軍と策應して米軍を挾撃すべく、直ちに敏速なる活動を開始した。

七七、南米諸國の大恐慌

狂暴惡虐なる米國及米國人の行動は、米國の爲めには、唯一の友邦たるの必要なる墨國を激怒せしめ、正當なる墨國の抗議に對する米國政府の言語道斷なる回答は、墨國政府及び一般國民をして對米宣戰の途に已むべからざるを決意せしめ、米國の國境に於ける對敵行動は、遂に米墨の開戦となり、米國々境軍の墨國侵入は、墨國々境軍の巧妙にして周到なる作戦準備によつて阻止せられ、二十萬の米國々境軍は、一舉にして全滅の悲運に陥つたが、此の意外なる開戦劈頭の出

來事は、世界の耳目を聳動せしめた。殊に米國の同盟國たる英濠諸國は、非常の驚愕と憂悞とを以て此の同盟國の凶報を讀んだ。

ところが、墨國軍の絶對的大捷利の戦報は、南米諸國をして猛然蹶起せしむる動機となつた。其米墨兩國の有する陸海軍、總人口、物資自給力等の数字的比較表の上から見ても、米墨戦の結果は既に始めから決定されて居る。墨國民が舉國的に如何に奮戦しても、如何に最後の血の最後の一滴となるまで戦ふ必死的覺悟と決心と努力とを以てするも、米國が持久的策戦を以てすれば、墨國は遂に米國の前に膝を屈せざるを得ない。殊に米國が墨國に對して戦を宣した裏面には、米國は半年以内に墨國の全軍を全滅せしめ、日本墨國側に參戦すとも斷じて恐るるに足らずといふ絶對確信を持つだけの偉力の強大眞に恐怖すべき新武器の發明を有して居た事情有るをやである。又たイザと言へば同盟國たる濠太刺利亞大共

和國が、墨國の背後を衝くに甚だ容易なる地位に在るといふ事情有るをやである。

而も若し、米墨戦が擴大せられず、米墨戦争は米墨戦争で終るとしても、最初は兎に角、最後の勝利は遂に米國の爲めに握られるに相違ないことは、米國に重大なる敗因の突發せざる限り、明瞭明白である。而して其結果が何うなるかと云へば、墨國敗れ屈すれば、墨國が獨立を失はない迄も、米國の保護國的地位に立たざるを得ない。或は事の成行如何によりては、米國は墨國を解體して、合衆國領土の一部に編入するやも測り知れない。其何れにしても墨國の運命は米國の巨手によつて支配せられ左右せらるゝに至ることは、議論の餘地がない。随つて南米諸國は米國の帝國主義の犠牲となり、米國の利益の爲めに存在する以外、南米諸國夫れ自身の權利利益の爲めの存在獨立は結局無意義となり了らざるを得ない。

是は米墨戦争の結局が米勝墨敗であることの明白であるが如く、必至の筋道であり必然の成行である。

斯くの如き明白なる米墨戦争の必然的歸結に對して、南米諸國は政府も國民も無頓着ではなかつた。彼等は米墨開戦の飛電に接すると同時に直ちに此の問題に對する對策を考へざるを得なかつた。否、彼等は米國の墨國並に南米に對する帝國主義侵略主義政策の萌芽した時代より、既に夙く私かに思慮しつゝあつたのである。

然らば、南米諸國は此の好ましからざる米墨戦争の結果より來る必至的歸結たる大厄難を除去するには、如何なる對策を執るべきか。即ち、墨國を援助し、墨國と一切の行動を共同して米國を粉碎することである。是れ以外、南米諸國の執るべき自衛的最善の政策はないのである。

七八、南米諸國の躍氣運動

果然、南米の風雲は急速に動いた。英、佛、蘭領のギアナを除く他の一切の獨立國即ち伯刺西爾、亞爾然丁、コロンビヤ、智利、祕露、ポリビヤ、ベネズエラ、エクアドル、ウルグアイ、バラグアイの諸國は共同一致の行動を執るべく、祕露共和國首府リマに首相會議を開いた。

リマに於ける首相會議は、迅速に進行し、滿場一致を以て左の事項を決定した。

- 一、米國に對し、墨國の要求を容れ、直ちに墨國と講和すべきを勸告すること。
- 二、若し米國にして、右の勸告を拒絶する場合は、墨國の正義に與し、米國に對して自由行動を取るべき旨の最後通牒を發すること。

三、米國政府が此の最後通牒に對し、満足なる回答を與へざる時は、締盟各國は同時に米國に對して宣戰し、墨國と共同動作すること。

四、締盟各國は最後まで共同し、單獨講和を爲さざること。

此の決議に基き、以上十ヶ國連名の對米勸告は、無線電信を以て、直接米國華盛頓中央政府に打電され、又同時に華盛頓駐劄の各國大使に打電された。

素より、南米諸國の勸告が、米國政府に於て全諾さるべきでないことは明かである。故に南米諸國は、此の對米勸告を發すると共に、着々戰備を整へた。

南米諸國の對米勸告に數日後れて中央亞米利加諸國即ちバナマ、ニカラガ、グアテマラ、コスタリカ、ホンチユラス、サルバドル六個國もニカラガ共和國首都オナグアに首相會議を開いて、南米諸國と同様の事を決議し米國に對して墨國との講和を勸告し、日墨人に對する排斥迫害を絶対に禁止せんことを以てした。

然しながら、此の中央亞米利加諸國の對米勸告も、所詮南米諸國の夫れと、結果に於て同様であるべきは、米國の回答を待たずして既に分明であつた。

七九、中米南米一齊に蹶起す

果せるかな米國は、中央南米諸國の勸告を一も二もなく跳ねつけてしまつた。米國政府は米國の行動が正當にして何等の邪曲なく、米墨戰爭は墨國の無法なる挑戦に餘儀なくせられたものであると主張し、米國は中米南米諸國の勸告が根本に於て誤解に立脚せるを難じ、斯くの如き勸告は、米國に對して爲さるべきものでなくて墨國に對して爲さるべきである。随つて米國としては斯くの如き筋違ひの勸告は受理するの理由なく一顧を費すの要なきものであると彈き返してしまつた。而して、斯くの如き筋違ひ見當違ひの勸告を敢てする中米南米諸國は墨國の

無法を援護せんとする正義人道の反逆者であると放言した。

此に於て、中米南米諸國は、米國に對し、十二時間以内に米國が満足なる回答を與へなければ、自由行動を執るべき旨の最後通牒を送つた。無論米國は満足なる回答は與へなかつた。其んな無法な筋違ひの勸告を提出し、是れに聽從しなれば自由行動を執るなどの無法亂暴な最後通牒に對し、米國は満足なる回答を與ふべき何等の責任も必要もない、自由行動でも何でも勝手に取るべし、米國はそんな無法な理由によつて中米南米諸國が自由行動を執つても決して恐れない、自由行動を執つて墨國に加擔するなら勝手にしろ、汝等如き小弱國は米國の問題とする所でないといつた風の亂暴な回答を以てした。

中米南米諸國は、最早や豫定の如く自由行動を執るの外なかつた。中米諸國と南米諸國とは第一回對米通牒後一切の行動を共にすべきを申合せ、最後通牒に對

する米國の回答に接するや、各國は同時に陸海軍の出兵を行ひ、陸軍は鐵道によりて陸續墨國に輸送せられ、墨國陸軍と共同策應して、米國ヘドシク侵入し始めた。海軍は聯合艦隊を組織し、墨國海軍と策應し、紐育を始め、米國大西洋岸を攻略すべく、コロンビヤ共和國の北端タクエ灣に集合し、米國海軍の機先を制し主力は直路紐育に向ひ、支艦隊はフロリダ半島方面に活動を開始した。

八〇、英佛濠亦た戰氣動く

米國の狂暴無法なる挑戰によつて爆發した米墨戰爭は、中米南米諸國の參戰により、戰爭區域は頓に擴大され米國對十七個國の戰爭となり、加奈陀を除く南北兩大陸は、今や濠々たる戰雲に蔽はれ、悽慘なる砲銃彈の叫び爆藥の臭ひ血腥き鮮血は兩米大陸の全土に滿ち漂ひ、毒瓦斯の恐るべき殺人力は數億の人類の上に

暴威を揮ひ、血と血、肉と肉、靈と靈との相互屠殺は隨處に而も無制限に而も大規模に演ぜらるゝに至つた。

形勢斯くの如くなつては、米國の同盟國たる英佛濠の諸國亦た安然として袖手傍觀して居るべきでない。結局に於ては、米國の絶對勝利に歸すべきを信じて居るにしても、小弱國にしても墨國を始め十七ヶ國を敵として戰つて居る米國に對して、何等の援助をも與へず、其の成行きを傍觀して居る譯には行かぬ、米墨開戰前即ち米墨間の外交的呼吸が急迫しつゝあつた頃から英佛濠間には、頻りに意見の交換が行はれた。愈々米墨の國交斷絶し火蓋を切つて以來は、墨國の同盟國であつて而も墨國を援助して米國を衝くに最も便宜の地位に在る日本の態度について多大の注意を拂ひ、獨露伊諸國の態度如何によりて神經を尖らして居たが、英佛濠間の電報の往復、使臣の活動の結果は、今後の戰況如何によつては三國一

齊に起ち、墨國以下十七個國の背側面攻撃を執行し、疾風迅雷的に大打撃を與へ、日獨露伊支諸國をして策を施す遑なからしむるに決した。

而して英佛濠諸國は表面米墨戰爭に對しては絶對無關係を装ひ中立的態度を執るに決せるもの、如く装うて、而も裏面に於ては着々參戰の準備を急いだ。演習を名として頻りに陸海軍人の召集或は禁足を行ひ、武器製造所は職工の増員を行ひ、製造能率を増進し、飛行機飛行船の如きは三國を合して三ヶ月間に百萬臺を製造するといふ、素晴らしい意氣込みで、殆んど晝夜兼行の状態で製造を急いだ。

是等英佛濠の裏面の行動に關しては、日獨露伊支諸國の國事探偵の活躍により、日本側同盟國には、大小悉く手に取る如く暗號を以て電報せられた。

而も、英佛濠政府の決心は、日獨露伊支諸國が英佛濠の蹶起に對抗して參戰せば、是れを機會として日獨露伊支、殊に同盟の中心勢力にして將來有色人種を

糾合して白人種を征服せんとする日本を根本的に打壊し、日本の解體を行はずんば止まないといふ牢平たる大決心であつた。それは英佛濠間に往復された電報を或る恐るべく巧妙なる科學的方法によつて、一々途中に於て複寫した日本の國事探偵の報告によつて明白に知ることが出來た。

八一、最終の目的は日本の解體

日米再戰によつて開始せらるべく進行しつゝあつた東半球の戰雲は、米國の墨國人に對する狂暴殘忍によつて意外にも米墨戰爭となり、米國が第一の敵として居た日本は局外的立場となり、世界大戰の番組は劈頭に於て意外なる方面に變更され、米國が殆んど問題にして居なかつた中米南米諸國が團結して參戰し、戰爭のプログラムは再び變更されたが、日本の參戰に先つて、英佛濠が參戰を決意

したことによつて、プログラムは三度び變更された。

斯くの如く英米佛濠同盟の開戦プログラムが一再ならず變更され、變更するの餘儀なき事情に餘儀なくされたといふ事實は、其れ丈け一般方略上不利を來したことは事實であるが、然し大體から見れば、即ち戦争の最終の目的から見れば、殆んど問題とするに足らない不利益に過ぎなかつた。

而も英米佛濠の最終の目的とは何か、日本側同盟の切崩しか、獨露伊墨の打破か、否、日本總攻撃であり、日本打壊である。即ち日本帝國の根本的解體である。即ち、寄て集つて日本の武裝を解除し、日本を解體せしめ、日本をして永久に起つ能はざらしむるか、英佛米濠の共同管理國たらしむるかして置いて、次で徐ろに亞細亞富源の大分割を行はんとするに在つた。

第一次日米戦當時に於ける墨國の日本に對する友誼的行動に對しても、日本は

現在目前に進行しつゝある墨國の危難に對して、永く局外者たるを得ない。墨國が米國及其の強大なる同盟國より袋叩きにされんとしつゝあり、近き將來に於て必ず袋叩きの憂目に會ふことの明白なる時に當り、安閑として傍觀的態度を持續して居ることは出来ない。日本は何うしても墨國の危難を救ふべく起たなければならぬ。

否、曾て日米戦當時墨國の友誼的援助を受けて居ないにせよ。英米佛濠同盟の最終の目的が、日本の打壊に在り日本の解體に在る以上、日本は英佛米濠を敵として戦はなければならぬ。日本の同情者であり日本と同盟を締結し日本と一切の行動を共にすべく盟約せる獨露伊支墨伯諸國が、日本に裏切つて敵國側に起ち、孤立無援となるも日本は今や敢然として起たなければならぬ。今日の味方も明日は敵、變化極りなきは國際の常である。日本は英佛米濠に對して敢て恐れぬ

けの支那を有し、同盟國を有するも、其等の支那同盟國を有するを以て總てを顧つて居るのは危険である、況んや英佛米濠は、曩日に於ける日本側同盟切崩し陰謀に失敗した後も、依然として切崩し陰謀の手を緩めず、巧妙なる手段方法によつて暗中飛躍を試み、日本を孤立無援の地に陥れんとしつゝあるをやである。況んや敵國の外交的術策、陰謀的宣傳は、所詮無効徒勞に終るものと樂觀するを許さざるものあるをやである。

今や我日本は、英佛米濠の砲彈の標的として、無數の砲塔の前に立たせられた。日本帝國が金匱無缺の大帝國として東亞に依然たる光芒を放つか、解體瓦解して俄然彗星の如く消え去り、只だ幾かに歴史的に日本帝國の名を留むるに至るかの危機は、今や目前に迫つた。

八二、日本側同盟國の戦備

英佛濠が、表面無事無爲を装ひつゝ、裏面に於て着々戦備を急ぎつゝある真相を偵知し得たる日本側諸同盟國に於ても、是れに對抗して、着々戦備を整へ、日本に於ては電波利用空中魚雷及發射機、並に空中軍艦の大擴張を行ひ、日本の一手で英佛米濠を粉碎せん大決心を以て製造を急ぎ、日本側同盟國も日に緊張して來た。

殊に目覺しき緊張状態を示したものは支那であつた。日米戦當時は、英米濠の甘言に欺かれて日本を敵としたが、戦後支那官民は奇蹟的に覺醒し、殆んど日本と異體同心の友邦となり、日本の指導によつて國力の充實を圖つた結果、僅々二十年間の短時日で、面目一新、舊時の老大弱國の面影は生々潑潑たる新興の大

國となり、白人殊に英米が多年支那に加へたる暴虐と富源の掠奪とに酬い、彼等の大罪惡に嚴罰を加へなければならぬといふ決心と覺悟は、五億餘の支那國民の頭腦に火の如く燃え、國民自から國民皆兵主義を高唱し、「正義人道の假面に隠れて暴虐殘忍を行ふ英米佛濠を倒せ、偽善の面皮をひん剝いて野獸國の解體を行へ」といふ憤激の聲は四百餘州に空氣の如く満ち、暴風の如き威力を以て五億民を奮躍せしめた。

八三、日本の致命傷的重大事件

斯くて米墨戰爭は中米南米の參戰によりて、世界戰的ページに入り、米國側同盟國の參戰準備、墨國側同盟國の參戰準備着々として進行しつゝあつた矢先、突如、日本の致命傷的重大事件が突發した。といふのは、日本が唯一の頼みとし

て居た空中軍艦及び空中魚雷發射機の重要な部分の機械が、何者にか抜き取られ盗み去られた事件である。而も軍隊によりて嚴重に警戒せられて居たにも拘はらず、何時の間にか重要部の機械が抜き取られたのである。若し其れが敵國間諜の手によつて盗まれたものとするれば、日本は最早萬事休すである。多年絶對秘密に附し、敵國が有らゆる手段方法を以て知らんとしして知り得なかつた空中軍艦、空中魚雷の秘密は、此の重要部の機械によつて悉く敵國に知られて了ふのである。他の部分は兎に角としても、此の部分だけは秘密中の秘密であつた。此の部分の秘密さへ洩れなければ、敵國の専門家が何十年研究しても、到底絶對に模造は出來ないほどのものである。而も斯くの如き重要な秘密中の秘密が、何時の間にか軍隊の警戒を潜つて盗み去られたといふに至つては、日本の全海軍が全滅したといふよりも、數百萬の陸軍が全滅したといふよりも重大なる事件である。曩に

參謀本部の機密書類が何者にか盗み去られた事件が突發したが、今度の事件は到底其れどころの問題ではない。此の重要部分の機械が敵國の手に入れば、日本は最早や俎上の魚である、敵國の手によつて思ふさまに料理せられ、屠り盡され、思ふまゝに解體せらるゝの外はない。

八四、日本の致命傷的大事件と透視鏡の大偉力

米墨開戦し、中米南米の諸國團結して一齊に蹶起し、戦雲は南北兩米大陸を蔽ひ、米國側の同盟諸國亦た戦氣動き、日本側同盟國亦た是れに對抗して戦備を急ぎつゝありて、世界戦は一時に爆發せんとする危険なる形勢に切迫した時、折も折、空中軍艦並に空中魚雷發射機の最も重要な部分の機械が、嚴重なる軍隊の警戒を冒して、何者にか盗み去られた日本の致命傷的大事件が突發し、政府

をして愕然色を失せしめたが、曩の參謀本部の機密書類事件の事もあり、是は恐らくジョysonson一派の米探の仕業であらうと云ふ判断を下し、當局官憲は犯人の搜索に従事した。

検事局では收監中のジョysonson及び其一味を取調べたならば、必ず犯人も判明するであらうと云ふので、ジョysonsonを始め二百餘名を検事局に呼び出し、連日連夜取調べをして見たが、ジョysonsonは頑として一語をも發せぬ、偶々口を開けば其塵事まで自分は知らぬと云ふ一點張り、他の連累米人等もジョysonson同様頑として云はぬ。百數十名の日本人はジョysonsonの爲めに人格變換法を施され、それが爲めに殆んど無意識に米探行動をやつて居たに過ぎないのであるから、幾ら取調べても頓と要領を得ない。

そこで搜索方面の官憲は再び朝川と其師博士との力を借り、透視搜索を行ふこ

とに決し、朝川と博士とは、又もや空中軍艦に乗つて全國の透視搜索を行ふことになつたが、出發三日目に房州勝浦附近の岩窟内に隠してあることを發見した。二回目の日本致命傷事件も、透視鏡の偉力によつて容易に短時日間に解決された。併し機械を抜き取つた犯人は一ヶ月後になつて漸く北海道札幌警察の手に逮捕された。

八五、日本遂に参戦す

日米再戦を發端として世界第二次大戦の序幕たるべく豫想せられて居た形勢が、意外にも日米開戦せずして、米墨戦争となり、多年の米國のモンロー主義と帝國主義とによりて壓迫せられ、強制せられ、不盡の不快と悪感と憎惡とを以て米國の横暴に陰忍して居た中米南米諸國が、米墨開戦を機會として、又た米墨戦

争の結果による利害得失より打算して墨國側に蹶起したことによりて、米墨戦争の形勢は著しく世界戦的色彩を帯びて來たが、中米南米諸國の團結的蹶起に對する米國側の邪推は遂に嚴正中立を恪守して居た日本をして敢然蹶起、中立を抛棄して参戦するの已むなきに至らしめた。

八六、世界の識者の觀測悉く裏切らる

日本遂に参戦！

此の一語は國際通信によりて世界各國に打電せられたが、其の反響は、第一次日米開戦當時以上に世界の人類を驚愕せしめた。無論、日米戦の終結した當時に於て、既に早くも日米の再戦は到底絶対に回避すべからざる既定のプログラムである。早かれ晚かれ實現するに相違ないといふ

ことは、世界の識者の何人の頭にも豫想せられた所であつた。而して其後に於ける米國及米國人一般の日本及日本人に對する態度は益々此の豫想を確實性に裏書きし其機會を促進せしむるものであつた。けれども、其後世界の識者をして、日米再戦の到底百年以内には實現しないであらうと思はしめるに至つた。其の唯一の原因理由は、日本の石佛博士が宇宙の引力斥力を利用して空中軍艦並に電波利用の空中魚雷といふ絶大なる發明を完成したことである。此の二大新武器の秘密が完全に日本に保持せられて居る限り、日米再戦は到底實現しない。縱令日本に再戦の意思があつても、此の二大武器に敵する新武器を有しない米國は絶對開戦を欲しない。米國が日本の空中軍艦及び空中魚雷に比敵し或は之れを凌駕する大偉力ある新武器を發明し得た時でなければ、米國は日本の挑戦に對して容易に應じないであらう、否な、それが無い限り米國は有らゆる屈辱を忍んで隱忍持久の

策を執るであらう。若し米國が日本關係の第三國と戦端を開くやうな場合があつても、米國は日本の參戰を阻止する爲めには有らゆる手段を講じ有らゆる方法を盡すであらう。是れが世界の識者をして日米再戦は百年以内には絶對に實現しないと想はしめた理由であつた。随つて、米墨間の國交危険となり、遂に開戦となつても、世界の識者は、日本は墨國側に立つて參戰するやうなことはあるまい。若し日本が參戰するやうな形勢となつたら、必ずや米國は講和問題を持ち出すであらう。縱令米國が直接に講和を提議しなくても、或第三國をして提議せしむる手段を執るであらうと觀測されて居たのであつた。

八七、英佛の驚憂

然るに事實は意外にも此の觀測を裏切つて日本は遂に參戰した。而かも中米南

米諸國と行動を共にして墨國側の爲めに蹶起した。此の意外なる事實によつて特に歐洲諸國の心膽を寒からしめたのは米國の滅亡といふことであつた。歐洲諸國中でも英佛は常に米國と行動を共にして來た國である。米國の戦争は英佛夫れ自國の戦争である。それ程英佛と米國との利害關係は步調を一にして居る。人種的關係から云つても英國と米國とは切つても切れぬ關係である。米國が日本の爲めに滅亡せしめられることあれば、英國も佛國も世界の強大國としての權威は悉く消滅して仕舞ふ。英國としては絶対に米國を滅亡せしめてはならない。如何なる手段に訴へても異人種たる日本の跋扈を牽制すべく米國の強大を維持せしめなくてはならぬ。然しながら日本が唯一の國防力とし、一朝開戦の際は必勝の攻撃武器として世界に誇つて居る空中軍艦と空中魚雷とは、何としても日本が世界に誇つても猶ほ餘りある世界無比無類の恐るべき大武器である。日本に此の二大武器の

有る限り、世界が束になつて掛つても到底日本を屈服せしめることは不可能であるのみでなく、世界は悉く日本の下に立つことを拒否することが出来ない。是れが偽らざる英國の本音である。佛國としても英國あつての佛國である、英國が滅亡するか強大國としての實力を失墜するやうなことがあれば、佛國の獨立は非常なる危険に陥らざるを得ない。何となれば、虎視眈々たる日本側の獨逸は國境を接して常に乘すべき機會を狙つて居るからである。又た其の恐るべき獨逸の背後には露國があり、佛國の東方には伊太利があり、土耳其があり、南方には日本と人種的系統を同うせる西班牙があり、其他内心日本に同情を有する諸國は歐洲丈けでも二三にして止まらない。此の危険なる形勢の下に唯一の頼みとせるは英國のみである。而も其の唯一の頼みとせる英國の地盤が瓦解するやうなことがあれば、根幹を切られた立木も同様である。佛國は坐して滅亡を待つより外に何等の

方途もないのである。

英國も佛國も此の意味に於て、日本が米墨戦争に参加するに至つたと云ふ電報を受取つて非常なる驚き且つ甚大なる愛心を抱いた。

それが爲めに英佛兩國政府間は、盛んに無線電信を以て意見の交換を行つた。駐佛英國大使は日に何回となく佛國多務省を訪問し、駐英佛國大使亦た日夜自動車を飛ばして英國外務省を訪問し、多年横暴専恣の振舞ひをして來た英國も、英國の尻馬に乗つて世界の執權職かの如き態度を無遠慮に示して居た佛國も、此の意外なる重大事件に對しては少なからず神經を惱まし、尠なからず恐慌し、殆んど滑稽に思はれるほどの狼狽の醜態を暴露したのであつた。

八八、日本参戦の理由

日本が米墨戦争に参戦した事は、世界を驚かせたが、然し日本が米國に對して宣戦するに至つたのは、日本が日米戦當時の鬱憤を晴さんが爲めに、自發的に積極的に執つた行動ではなかつた。日本としては實に已むを得ざる結果遂に事茲に到つたものであつたのである。

無論日本は、日米戦以來の米國政府及一般米國人の日本及日本人に對する一切の態度行動に對して、尠なからず感情を害して居たことは事實であつた。米國及米國人が日本及日本人に加へたる侮辱的行爲は、如何なる立場に立ちて如何なる理由を附して見ても、斷じて文明國として文明國人として爲すべき紳士的行動ではなかつた。日本及日本人が衷心より親善を欲し紳士的提携を欲するに對し、米國及米國人の之れに對する態度、之れに酬ゆる所のものは、常に事々に侮辱であり凌辱であり喧嘩腰であり挑戰的であつた。然し日本は武力的に他國を征服し、

多くの國家民族の上に武力的凱歌を奏するを以て満足の頂上と心得て居るものではない。日本及日本人は眞の精神文明の土臺の上に建設された物質文明の運用を最善に遂行する國家國民として、世界の第一線に列することを目的とするものである、即ち他國及他民族を武力的に征服して其上に支配の權力を揮はんことを欲するのでなくて、相互的立場に立ちて永久の平和を確立し、誠心誠意の親善提携を欲するものである。之れが爲めに、日本は米國の挑戦的態度に對しても、之れを回避し、平和的に解決し、以て眞面目なる親善提携を實現すべく、最高級の來た。之れが爲めに米國人の侮辱的行動に對しても隱忍する努力をしことに最大級の我慢をして來た。

處が米國及米國人は、米墨戰爭の勃發するに及び、又た米國內の黒人が墨國に加擔して反旗を翻し、開戦劈頭に於て米國々境軍二十餘萬が、米墨國境に於て粉碎的に全滅せしめられた事について、一に日本の教唆煽動と秘密の援助とに依るものであると云ふ邪推を下し、日本に對して言語道斷の罵詈譎を加へて來た。單に罵詈譎を恣にするのみであつたら、日本としても之れに酬ゆる丈の辯明をして參戦するが如き重大なる行動は執らなかつたが、米國政府は何等事實上の證據をも捕ふる所なくして、而も公式に日本政府に對し、墨國其他中米南米諸國を教唆煽動し密かに援助を與へつゝある非を鳴らして來た。

日本政府は此の言語道斷の抗議に對し、日本は墨國に對しては勿論、中米南米諸國に對しても、未だ曾て米國政府が抗議せるが如き行動を取つた覺えはない。若し事實であると云ふなら其の事實上の證據を示されたい。想ふに是は米國政府の邪推誤解であると辯明した。然し血迷つた米國は日本の辯明を受人れる丈の常識は全然無くなつて居た。米國政府は、日本は墨國及中米南米諸國を教唆煽動

し米國に宣戦せしめ、且つ密かに援助を與へつゝあり、米墨戦争、中米南米の對米宣戦は米國の挑發したものでなく、墨國並に中米南米諸國の自發的動機に原因せるものでなく、一に極東日本の教唆煽動に因るものである。故に今次の戦争に關しては米國は何等開戦上の責任を負ふべきものでない、此の戦争を煽動した日本が一切の責任を負ふべきである。と世界に宣言し、米墨開戦、中米南米諸國の對米宣戦の責任を日本に轉嫁せんとする言語道斷の行動を執るに至つた。

事茲に到つては日本も黙つては居られぬ。自衛上の手段として米國の非理邪曲を打破し、世界列國をして米國の曲言に欺かれざらしむべき措置に出でなければならぬ。故に日本政府は直ちに米國の發表した宣言を駁し、其内容が悉く米國の邪推誤解に因るもので、徹頭徹尾無根の事實であり、誣妄の甚だしきものであることを宣言した。是れ丈けなら日本は猶ほ陰忍して開戦するが如きことはなかつ

たが、米國海軍の排日過激派は、政府に圖らず、獨斷的に、米國潜水艦に墨國の國旗を掲揚し、太平洋及南洋に於て、日本商船及び二隻の巡洋艦を撃沈せるの狂暴を敢てした、撃沈された巡洋艦及商船より發した無線電信により、海軍當局は、空中艦隊軍令部と共に、空中軍艦二隻と潜水艦三隻を出動せしめ、墨國國旗を掲揚した潜水艦を追躡せしめた。空中軍艦と潜水艦は直ちに根據地を出發し、狂暴潜水艦を追躡し、南洋に於て捕獲したが、乗組員は墨國人と思ひきやく米國海軍將校の指揮する米國海兵であつた。

茲に於て日本政府は之れを證據として米國政府に嚴重なる抗議を持ち込み、損害賠償を要求した。處が米國政府は、最初米國の潜水艦ではないと主張したが、現品を捕獲した日本政府より動かすべからざる實證を突つけられるに及んで、今度は該潜水艦は政府の命令によつて行動したものでなく、該潜水艦長の獨斷專行で

あるから、米國政府は之れが責任を負ふ義務はないと詭辯を弄し、頑として日本の要求に應じなかつた。

此の事件を導火線として日米間の國交は急轉直下し、遂に相互宣戦となり、日本は自然の成行として墨米及び中米南米諸國と行動を共にし、狂暴なる米國を打破すべく猛然躍起したのであつた。

八九 日本空中艦隊の米國襲撃

米國の邪推誤解と頑冥不靈と邪惡狂暴とによりて戦争を餘儀なくせしめられて愈々宣戦となるや、日本の空中艦隊は、米國大襲撃を執行すべく、根據地を出發した。米國全土に對する大襲撃と云つても、無論空中艦隊の全部が出動したのではない、全部十艦隊の中の三艦隊出動したに過ぎない、空中艦隊の一艦隊は、十

萬噸級艦一隻、五萬噸級艦一隻、一萬噸級二隻を一戰隊とする三戰隊である、即ち一艦隊は十萬噸級の大型艦三隻と五萬噸級の中型艦三隻と一萬噸級の小型艦六隻とによつて組織されて居る。米國襲撃の爲め出動したのは三艦隊であるから都合十萬噸級艦九隻、五萬噸級艦九隻、一萬噸級艦十八隻で、合計三十六隻である。何しろ一萬噸級艦一隻でも其の威力は海上軍艦の五萬噸六萬噸級艦の百隻以上であるから三個艦隊三十六隻の威力は世界の海上軍艦を束にしたよりも遙かに優勢である。

而も其各艦には數臺の空中魚雷發射機が搭載されあり、其航空速度は一時間一千哩以上である、一度此の絶大威力を有する大空中艦隊が米國に向つて襲撃前進を開始せんか、米國太平洋岸に達するには三時間を要しない。而も亦此の空中艦隊一度び米國の上空に達せんか、三千六百餘萬方哩の廣大なる米國の全土は、一

時間経たないうちに茶々無茶に破壊され、大小幾多の都會も村落も忽として焦土と化し、二億餘の米國民の過半数は瞬間に粉碎されて仕舞ふのである。米國如何に人口の大を誇り、富力の強大を誇り、軍需品製造能力の大を誇り、物資自給力の無限を誇り、陸海軍人の愛國心の熱烈を誇つても、龍車の前の蟻螂の斧ほどにも値しない、怪力魔神に抵抗せんとする赤ん坊ほどの値打もない、米國が日本の空中軍艦の此の絶大なる威力を輕視して挑戦したといふのは、實に無謀の極であつた。獅子の鬣を引張つて獅子を激怒せしめた小猿にも等しい愚であつた。今や米國は日本を出發した空中艦隊の爲めに建國以來攻々として築き上げて來た富と文明と都會と其他一切のものを悉く微塵に粉碎されなければならぬ破目に陥つたのである。

此の調子で行けば、此の戦争は僅々數時間後に決せられる譯である。其の決せ

られ方も米國の零敗と絶對無條件降伏によつて決せられる譯である。日米の開戦は、米國が何等の成算なくして挑戦したものとすれば、體くべき無智であり愚蒙であり無謀であるが、而も日本としては戦争の前途に何等の杞憂も考慮も必要としない絶對安全の戦ひである。

然し果して米國は既に日本に世界無比の空中軍艦と空中魚雷の絶大威力を有する武器のあることを熟知して居る。而も是れを熟知しながら猶且つ挑戦的態度を取つた反面には、日本の空中軍艦や空中魚雷を恐れない何物かを有し、之れに襲撃さるゝも絶對に敗戦する恐れのない何等かの成算があつたのではあるまいか。若し日本の空中軍艦や空中魚雷を恐れない丈の何物かを有して居たとすれば、其は果して何であつたか、若し日本の空中軍艦や空中魚雷に襲撃されても斷じて敗れない丈の確信を持つ成算があつたとすれば、其の成算なるものは果して何

であつたか——？

九〇、果然米國には必勝の成算があつた

果然米國には成算があつた。必勝の成算があつた。空中軍艦を有し空中魚雷を有する日本と開戦し、其の空中艦隊に襲はれ空中魚雷を雨下され集注されても斷じて敗れないのみならず、却つて之れを撃攘し日本を反撃して零敗に至らしめ得るといふ牢乎たる確信を持つ丈けの或物を有して居た。

然らば、其の米國が日本と開戦して而かも斷じて敗れざる或物を有して居たと云ふ其の或物なるものは果して何であつたか、米國が日本の空中艦隊に襲來されても、空中魚雷の襲撃を受けても、些しも恐るゝに足らざるのみならず、世界無比の絶大威力として、日本が世界に誇れる空中軍艦及び空中魚雷を無威力のもの

たらしめ、却つて日本を粉碎的に撃破し得るとの牢乎たる確信を抱かしめたる或物とは果して何であつたか、其の或物の實體正體は果して何であつたか。是は米國に取りて重大なる絶對秘密であつたと同時に日本に取りては實に由々しき重大事であつた。

九一、米國側同盟諸國の一齊宣戰

日本參戰の無線電信を接受して一大恐慌を惹起したる英佛は、其の翌日、昨日の恐慌と打つて變り、意氣大いに昂り、加奈太、濠洲、其他の同盟國と共に日墨中米南米諸國に對し、共同宣戰を布告した。

不思議！ 不思議！ 實に不思議と云ふか不可解と云ふか、日本參戰の無線電信に接して、青天の霹靂の如く震撼し、周章狼狽、殆んど爲す所を知らずの醜態

を演じた英佛を始めとして、濠洲、加奈太其他の米國側同盟國が僅か一夜にして態度一變し、日墨中米南米諸國に對して共同宣戰を布告するとは、實に不思議である。

然し、世界の有らゆる國家と國民とが、東になつて對抗しても到底絶對に勝目のない空中軍艦及空中魚雷の大武器を有する日本として、内心非常に恐怖して居た英、佛、濠、加等米國側の同盟諸國が、日本の參戰を知つて青くなつた其翌日急に態度を一變して共同宣戰を爲した不思議不可解なる行動の裏面には、彼等の態度を斯く急變せしめた何等かの事情があつた。其は即ち米國の秘密通牒であつた。日本參戰の報を得て愕然として驚いた其日の夜半、米國より發した暗號無線電信が即ち英佛諸國をして、急に態度を一變せしむるに至らしめた原因であつた。米國より發した暗號無線電信！ 米國が日本を恐れず挑戦した態度と合せ考へ

て見れば、其の暗號無線電信なるもの、内容が、如何なる性質のものであつたかは想像するに難くはあるまい。

九二、全世界遂に戦亂の巻と化す

日本に世界無比の二大武器ありと云つても、米國側同盟國が米國の爲めに一齊に蹶起し、日墨中米南米諸國に戰を宣した以上、日本側同盟國たる獨、露、伊支諸國と雖も袖手傍觀し、て居る譯には行かない米國側同盟諸國が共同宣戰をしたといふ無電に接するや是れ亦た直ちに共同宣戰を布告した。

英佛海軍の一半は、先づ墨國及び中米南米諸國を一氣呵成に征服すべく、大西洋を突破して急行し、加奈太大西洋艦隊亦た英佛海軍と共同動作すべく、一部艦隊は本國軍港を出發して南下し、太平洋艦隊は米國艦隊と共同して日本艦隊を太

平洋上に撃破すべく日本に向ひ、濠洲艦隊の主力は日支の海軍を粉碎すべく北行し、其の一部艦隊は支那海に向ひ、他の大部分の艦隊は臺灣琉球八重山群島を占領し、更らに北行して九州の南岸を襲撃せんとする策戦を以て行動を開始した。此の急轉直下の新形勢に應ずべく、日本は獨露伊支其他の同盟國に對し、應援軍として空中魚人を搭載した空中艦隊の一艦隊宛を急派し、墨國、中米、南米諸國の危急を救ふべく、墨國に空中軍艦一艦隊、中米南米に二艦隊を急行せしめ、米加の遣東艦隊に對しては空中軍艦の一艦隊を向け、濠洲艦隊に對しては一艦隊を急行せしめ、空中傳令艦をして遣米三艦隊の中より適宜の艦隊を加奈太に轉航せしめ、加奈太全土に對して迅速なる大攻撃を決行せしめよと云ふ命令を齎らしめた。

又、獨露露伊等の海軍は英佛其他英佛側に加擔せる歐洲方面の敵國を攻撃し、

太平洋、南洋、南米大陸方面は専ら日墨支中米南米諸國に委する策戦を取つた。而して獨露露伊の陸軍は日本より援軍として急遣された空中軍艦援護の下に先づ佛國を包圍攻撃し他の空中軍艦援護の下に海軍を以て英國海軍を撃滅して英佛間を遮斷し、一舉にして英佛の致命を制せんとする策戦によつて疾風迅雷的に行動を開始した。

斯くて全世界は戦亂の巷と化し、第二次世界大戦は開幕した。一百餘年前に於ける第一次世界大戦當時の如く世界の人類は腥き鮮血に漂ひ、血腥き空氣に窒息せねばならなくなつて來た。困苦と缺乏との慘に或は餓死し或は餓死せねばならぬ恐ろしい時が來た。幾百千億の人類が數千年間時と努力とを費して築き上げて來た世界の文明は、百餘年前の第一次世界戦によりて危く全滅せしめられんとし、漸く一部分の破壊のみによりて免かれたが、今や第一次世界戦によりて破壊さ

れた部分を復舊したるものも、當時破壊を免かれたるものも其後今日迄營々致々として建設した所のものも、一切合切悉く茶々無茶に破壊され、全世界を擧げて無残の焦土荒野と化し、人類發生當時の如き状態に還元さるべき真に戦慄すべき人類大悲劇の幕は世界全人類の眼前に展開せられた。

恐るべき破壊は世界の到る處に到らざるなく行はれ始めた。慘憺たる流血の悲劇は世界の到る處に到らざるなく演ぜられ始めた。傷ましき阿鼻叫喚は世界の到る處に起つた。今や平和の地は世界の何處の隅にも發見することが出来なくなつた。

九三、米國發明家の恐るべき大發明

日本の強要された餘儀なき結果の參戰は、世界大戰爆發の前提となり、米國側

同盟たる英、佛、濠、加其他之れと利害關係を同する數十國參戰し、日本側同盟國たる獨、露、伊、支、澳、洪其他の數十國亦た之れに對抗して蹶起し、第二次世界大戰となつたが、米國が日本の參戰を恐れなかつた裏面には、日本に取つて、又た日本側同盟諸國に取りて、震駭すべき大事件であつた。

米國は日米戰爭前に於ても、國庫より莫大の金額を支出して、國民の發明心を激勵し、發明家に對しては徹底的保護援助を與へて居たが、日米戰後、日本に空中軍艦及空中魚雷と云ふ世界無比の大威力を有する二大武器の發明完成し、空中艦隊の組織成るを見て、密かに敏腕なる國事探偵を派遣して、其の機密を探らしめつゝ國內に於ては更に年々數億の巨費を發明獎勵保護資金として民間の發明家に鞭撻を加へ、日本の空中軍艦や空中魚雷に對抗すべき、否寧ろより以上の發明を完成せんと、官民一致し白熱的に努力しつゝあつたが、日墨開戦して間もなく

華盛頓州リッチモンドの南方パラ市に隠遁し、靜かに餘生を送りつゝあつた老學者が、數年前老齡の故を以て隱遁生活を送り、國家の危急存亡を傍觀するは寧ろ一種の國賊である非國民であると云つて、新武器發明の研究に全力を傾注し、遂に日本の空中軍艦の進退を拘束し、空中魚雷の威力を殆んど無効ならしむる偉大なる發明を完成し、之れを政府に提供した。米國政府の日本に對する鼻息が頓に荒くなつて、いよ／＼喧嘩腰となつたのは其れが爲めであつた。

米國は、墨國と戦ひつゝ、武器製造會社に内命を下し、此の新發明の武器を晝夜兼行で無制限に製造せしめた。米國が日本の參戰となつても驚かなかつたのも其れが爲めであり、英佛濠諸國が日本參戰の無線電信に接して驚き、周章狼狽したにも拘はらず、其翌日米國よりの秘密通牒に接するや態度一變し、急に強硬となつて共同宣戰を布告したのも其れが爲めであつた。

九四、全世界血の海と化す

斯くの如き徑路、斯くの如き形勢、斯くの如き事情とによりて、世界の形勢は急轉直下の急變し、戰雲一時に爆發し、世界の到る所に屍の山を築き血の海を作つた。歐洲も南洋も兩米大陸も亞細亞も阿弗利加も、悉く血の海と化し、無数の屍は千切られた牛肉か馬肉の如く其中に漂つた。

日本の空中軍艦も空中魚雷も、米國の新武器の發明によりて無比の大武器たる資格はなくなつた。空中軍艦の突撃も空中魚雷の襲撃も、屢々米國新武器の爲め無効に歸せしめられ、却つて米國航空隊の襲撃に震駭するやうな形勢となつた。

日米兩國のみでなく、濠州も加奈陀も歐洲諸國も新しい幾多の武器が發明されて居た。交戰各國は、今度の戦争は何れか一方が全滅するまで繼續せられるもの

であると考へた、随つて第一次世界戦の如く五年や六年では到底終熄するものではない、少くとも十年十五年間は繼續せらるゝに相違ないと考へた。第一次世界戦も世界の専門家は二年位で終るだらうと観測して居たのが意外にも五年以上續けられた。それから見ると今度の第二次世界戦は十年乃至十五年と思つて居ても實際は二十年三十年の長期戦争となるかも知れない。さうなると軍需糧食は無限の自給力がなくてはならぬ、それが爲めには従來の如き方法では幾年も經たないうちに零敗しなければならぬ。然らば如何にせば此の長期の戦争に堪へて而も最後の勝利を得ることが出来るか、此の問題は交戦各國が開戦前後に於て痛切に眞面目に眞剣に苦慮した所の恐慌的大問題であつた。

九六、勝敗如何

茲に於て讀者の頭には必ずや勝敗如何と云ふ問題が起るに相違ないが、筆者は其の最後の幕まで書くことを欲しない。筆者が茲に勝敗如何の問題に解決を答ふるよりも、寧ろ讀者自から解決した方が有意義であり且つ興味ある問題であらうと思ふ。只だ筆者は、讀者が此の最後の問題に對して解答を作る材料として、左に數言を費して置きたい。それは、即ち、

一、第一次世界戦よりも更により徹底的戦争であること。
二、随つて戦争は第一次世界戦に比し、更により長期戦争であり、少くとも十年以上繼續せらるべき性質の戦争たること。

三、戦争によりて生ずる人命の犠牲は、武器の進歩程度第一次世界戦争當時に比し驚くべきものあるが爲め、驚くべき多數であること。

四、交戦各國の武器軍需品其他一般國民の生活物資は悉く自給自足でなくては

ならぬ。其れが爲めには、從來の如き方法では到底此の長期の戦争に堪へ最後の勝利を得ることは不可能であること。

五、此の難問題を解決するには、すべての交戦國間には或物の研究が競争的に行はれなければならぬこと。

六、其或物とは果して何か、此の或物が何であるかを知り得る者にして始めて此の第二次世界大戰の勝敗結局が何うなるかの問題を解決し得る。

右の六項について讀者が熟考して見たならば、必ずや、戦慄すべき或ものを痛感痛思せずには居られないであらう。

小説 第二次世界大戰未來記 終

大正十年三月五日印
大正十年三月八日發

行刷

不許複製

著者 樋口 麗陽

發行者 神戸文三郎
東京市小石川區白山前町卅三番地

印刷者 森田愛介
東京市牛込區東五軒町四十番地

發行所

東京市小石川區白山前町
(振替東京四七七八八番)

大明堂書店

小説 第二次世界大戰未來記

【定價金壹圓六拾錢】

(大 明 堂 印 刷 所)

編前の書本★るあつつけ受を迎歡の前空

讀者國の諸士を起さるるにめしらすに狂熱々々よい行賣にめしらすに

徹頭徹尾の興味の絶心物

小説

發行 極東 東京 山崎 八幡 大明堂書店 柳井 州 書店

先づ内容項目を見られよ 即ち御注文を乞ふ
◆樋口麗陽先生著 ◆好評噴々
者國の諸士を起さるるにめしらすに
なさを起さるるにめしらすに
りなさを起さるるにめしらすに
さるるにめしらすに

281-58 21

終